

国際オリエンテーリング連盟 (IOF) フット・オリエンテーリング競技会 競技規則

COMPETITION RULES FOR INTERNATIONAL ORIENTEERING FEDERATION (IOF) FOOT ORIENTEERING EVENTS

(ワールドゲームズ・オリエンテーリング競技規則)
(世界オリエンテーリング選手権規則)
(オリエンテーリング・ワールドカップ規則)
(ジュニア世界オリエンテーリング選手権規則)
(世界マスターズ・オリエンテーリング選手権規則)
(地域オリエンテーリング選手権規則)
(IOF 世界ランキング競技会規則)

競技規則のこのバージョンは、2022 年 1 月 1 日から有効である。
その後の修正は、IOF のオフィシャル Web サイト (<http://www.orienteering.sport/>) で公表される。

(注釈)

この日本語版は、(公社) 日本オリエンテーリング協会・競技委員会が和訳したものである。
2020 年版から 2021 年版における変更箇所を欄外に棒線で示している。
付録 6 中の表、7、8 および 11 以降は割愛した。(日本国内の競技と関係のないものもあるため)

フット・オリエンテーリング競技会 競技規則

1. 定義 (Definitions)
2. 総則 (General provisions)
3. 競技会プログラム (Event programme)
4. 競技会申請 (Event applications)
5. クラス (Classes)
6. 参加 (Participation)
7. 経費 (Costs)
8. 競技会についての情報 (Information about the event)
9. エントリー (Entries)
10. 旅行および輸送 (Travel and transport)
11. トレーニングおよびモデル・イベント (Training and model event)

12. スタート順および枠の配分 (Starting order and heat allocation)
13. チーム・オフィシャル・ミーティング (Team officials' meeting)
14. テレイン (Terrain)
15. 地図 (Maps)
16. コース (Courses)
17. 制限されているエリアおよびルート (Restricted areas and routes)
18. コントロール位置説明 (Control descriptions)
19. コントロール・セットアップ、および装置 (Control set-up and equipment)
20. パンチング・システム (Punching systems)
21. 器具 (Equipment)
22. スタート (Start)
23. フィニッシュおよび計時 (Finish and time-keeping)
24. 結果 (Results)
25. 表彰 (Prizes)
26. 公正な競技 (Fair play)
27. 申し立て (Complaints)
28. 提訴 (Protests)
29. 裁定委員 (Jury)
30. アピール (Appeals)
31. イベント・コントロール (Event control)
32. イベント・レポート (Event reports)
33. 広告および後援 (Advertising and sponsorship)
34. メディア・サービス (Media service)

- 付録 1: 一般的な競技クラス (General competition classes)
- 付録 2: コース・プランニングの原則 (Principles for course planning)
- 付録 3: 良好な自然環境対策における I O F の決意 (IOF resolution on good environmental practice)
- 付録 4: 認可されたパンチング・システム (Approved punching systems)
- 付録 5: ライプニッツ協定 (Leibnitz Convention)
- 付録 6: 競技の構成 (Competition Format)
- 付録 7: ヨーロッパオリエンテーリング選手権 (The European Orienteering Championships)
- 付録 8: ヨーロッパユースオリエンテーリング選手権 (The European Youth Orienteering Championships)
- 付録 9: アジアオリエンテーリング選手権 (The Asian Orienteering Championships)
- 付録 10: アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権 (The Asian Junior and Youth Orienteering Championships)
- 付録 11: オセアニアオリエンテーリング選手権 (The Oceania Orienteering Championships)
- 付録 12: 北米オリエンテーリング選手権 (The North American Orienteering Championships)
- 付録 13: 南米オリエンテーリング選手権 (The South American Orienteering Championships)

主要競技会規則の索引 (Index to major event rules)

1. 定義 (Definitions)

- 1.1. オリエンテーリングは、競技者 (competitor) がテレイン (terrain) の中を独力でナビゲーションして進むスポーツである。競技者は、地上に表示された多くのコントロール・ポイント (control points) を、地図とコンパスのみを使用して、可能な限り短時間で走破しなければならない。コースは、コントロールの設置位置によって定義されるものであり、競技者がスタートするまで公開されない。
- 1.2. 個人のインターバル・スタート競技では、競技者はテレインの中を独力でナビゲーションして走る。
- 1.3. マス・スタートおよびチェイシング・スタート競技では、競技者が互いにかかり接近して走ることがありうるが、形式的にはやはり独力でナビゲーションすることが求められる。
- 1.4. 競技者という用語は、出場を認められた男・女の選手個人、あるいはチームを意味する。
- 1.5. オリエンテーリング競技 (competition) は以下のような形態 (type) に分類される。
 - ・ 競技の開催時刻
 - ・ 昼間競技 (日照下)
 - ・ 夜間競技 (暗中)
 - ・ 競技の種別 (nature)
 - ・ 個人競技 (競技者個人が独立して行う)
 - ・ リレー競技 (2名以上の競技者が連続して継走する形式で行う)
 - ・ 団体競技 (2名以上の競技者が協力する方式で行う)
 - ・ 競技結果の決定方法:
 - ・ 単一レース競技 (single-race competition)

(1 本のレース結果が、最終成績になる。競技者は別々のレースで競うこととしてもよい。A-レース、B-レースなどに分け、B-レースの選手は A-レースの選手の後に順位付けされるなど。)
 - ・ 複合レース競技 (multi-race competition)

(1 日または複数日で行われ、複数レースの所要時間の合計が最終成績になる。)
 - ・ 予選・決勝レース競技 (qualification race competition)

(競技者は、1つ以上の予選を通過することで決勝のレースの参加資格を得る。予選では競技者がいくつかの枠に分けられる。予選の結果によって決勝のスタート順が決められる。決勝の結果のみが競技成績となる。A-決勝、B-決勝を置いてもよい。A-決勝より後ろの順位の者は B-決勝となる。枠がひとつで、すべての競技者が決勝に進出できる時、予選レースのことをプロローグ (prologue) と呼ぶ。)
 - ・ ノックアウト・スプリント (knock-out sprint)

(競技者を 1 つまたは複数のグループに分けてインターバル・スタートで予選を行い、ノックアウト・セクションへの進出者を決める。ノックアウト・セクションでは、1 つまたは複数のラウンドを平行コースのマス・スタートで行い、上位の者が次のラウンドに進む。最後のラウンドは単一コースのマス・スタートで勝者を決める。)
 - ・ コントロールの通過順序
 - ・ ポイント競技 (指定された順番に回る競技)
 - ・ フリー・ポイント競技 (任意の順番で回る競技)
 - ・ レース距離 (または形式)
 - ・ ロング・ディスタンス
 - ・ ミドル・ディスタンス
 - ・ スプリント
 - ・ その他
 - ・ レースのスタート方法
 - ・ インターバル・スタート (レースはタイムトライアルで行われる。最も速かった者が勝者となる。)

- ・マス・スタート (競技者が同時にスタートする。最初にフィニッシュラインを通過した者が勝者となる。)
- ・チェイシング・スタート (事前のレースの成績にもとづいた時間間隔でスタートする。最初にフィニッシュラインを通過した者が勝者となる。)

1.6. 連盟 (Federation) という用語は、IOF のメンバーである連盟を意味する。

1.7. 競技会 (event) という用語は、スタート順抽選、チーム・オフィシャル・ミーティング、および式典といった組織的事項も含めて、オリエンテーリング・ミーティングの全ての局面を総称する。世界選手権のような競技会では、2 つ以上の競技が含まれる。

TWG

1.8. ワールドゲームズ (TWG) オリエンテーリング競技会は、ワールドゲームズ・オリエンテーリングチャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) の後援のもと、IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WOC

1.9. 世界オリエンテーリング選手権 (WOC) は、オリエンテーリング世界チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WCup

1.10. オリエンテーリング・ワールドカップ (WCup) は、全種目のシーズンを通じて世界で最も優れたオリエンティアを決するための公式の競技会シリーズである。IOF および主催者の連盟の共催で、複数の競技会を開催する。

JWOC

1.11. ジュニア世界オリエンテーリング選手権 (JWOC) は、オリエンテーリング・ジュニア世界チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WMOC

1.12. 世界マスターズ・オリエンテーリング選手権 (WMOC) は、世界で最も優れたベテラン・オリエンティアを決するための公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

ROC

1.13. 地域オリエンテーリング選手権 (ROC) は、IOF の各地域 (Region) におけるオリエンテーリング地域チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。IOF の各地域とは、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアおよび南米をいう。

WRE

1.14. IOF 世界ランキング競技会 (WRE) は、IOF 理事会 (council) で承認されて公式 IOF カレンダーに記載された国際競技会である。IOF および主催者の連盟の共催で開催する。

1.15. IOF 世界ランキング方式 (scheme) は、TWG、WOC、WCup、ROC、WRE での成績にもとづいて、エリート・オリエンティアをランキングするものである。連盟の男女のランキング順位は、各々の連盟において最も上位の競技者のランキング・ポイントに基づいて決められる。

1.16. IOF イベントアドバイザー (Event Advisor) は、IOF イベントをコントロールするために指名された者をいう。ワールドゲームズ、世界オリエンテーリング選手権、ジュニア世界オリエンテーリング選手権、世界マスターズ・オリエンテーリング選手権および地域オリエンテーリング選手権では IOF シニアイベントアドバイザーという肩書を用いる。

2. 総則 (General provisions)

2.1. IOF 規則 (rules) は、付録も含めて、世界オリエンテーリング選手権、オリエンテーリング・ワールドカップ、ジュニア世界オリエンテーリング選手権、世界マスターズ・オリエンテーリング選手権、地域オリエンテーリング選手権および IOF 世界ランキング競技会の W21・M21 エリート・クラスに適用される。項番の前に競技会の省略形がついていない規則は、これらすべての競技会で有効である。1 つか複数のある競技会でのみ有効な規則は、項番の横の緑に特定の省略形が印としてつけてある。そのような特定の規則は、それと矛盾する一般規則より優先する。

- 2.2. 2つのタイプの競技会が同時開催される場合（例えば、世界選手権がワールドカップの一部として開催される場合など）、高いレベルの競技会の規則が優先される。（レベルの高さは1.8-1.14の順番にて定義される。）
- 2.3. IOF 規則は、各国の規則の基本として推奨される。
- 2.4. 特にことわりがない限り、IOF 規則はフット・オリエンテーリング競技の各日において有効となる。
- 2.5. IOF 規則と矛盾しなければ、主催者は追加規定（regulations）を定めてもよい。それらは IOF イベントアドバイザーの承認を必要とする。
- 2.6. IOF 規則および追加規定は、すべての競技者、チーム・オフィシャルおよび、その他大会組織と関係を持つかあるいは競技者と接触する者に適用される。すべて追加規定は最終の競技会プリテンで公表しなければならない。
- 2.7. 競技者、主催者および裁定委員（Jury）は、IOF 規則を解釈するにあたり、スポーツの公平を旨としなければならない。
- 2.8. IOF 規則が翻訳されることによって解釈の相違が生じた場合、英文のテキストが優先されなければならない。
- 2.9. リレー競技においても、特にことわりがない限り、個人競技の規則が有効になる。
- 2.10. IOF 理事会は、遵守しなければならない特別な規則あるいは基準を定めることができる。（例） IOF 反ドーピング規則、IOF 式典（protocol）ガイド、オリエンテーリング地図の国際仕様、スプリント・オリエンテーリング地図の国際仕様、コース・プランニングの原則、ライブニッツ協定、IOF コントロール位置説明。
- 2.11. IOF 理事会は、これらの規則および基準から逸脱することを認めることができる。逸脱認可の申請は、競技会の最低 6 カ月前までに IOF 事務局（Secretariat）に提出しなければならない。
- 2.12. 各イベントタイプに対して定められた IOF ガイドラインおよびマニュアルを遵守しなければならない。これに大きく逸脱する場合は、IOF イベントアドバイザーの同意を必要とする。

TWG

- 2.13. TWG のレースは、IWGA 規則で許容できる範囲であって、TWG 特有のレース形式でも可能な場合は、WOC の規則に準じなければならない。

JWOC

- 2.14. 選手権大会は、以下の原則にしたがって運営されなければならない。
- ・各連盟からの最高のジュニア・オリエンティアにとって、高い技術的な品質の競技を提供されなければならない。
 - ・競技会は、競争的な雰囲気であるよりはむしろ、経験を交換しあうことに重きを置いた社会的な雰囲気で行われなければならない。
 - ・参加費が低くおさえられなければならない。

ROC

- 2.15. ROC の特別な規則については、付録 7～13 に定める。

3. 競技会プログラム（Event programme）

- 3.1. 競技会の日付およびプログラムは、主催者から提案されて、IOF 理事会によって承認される。

WOC

- 3.2. 世界オリエンテーリング選手権は毎年開催される。プログラムには、開会式、閉会式、適切なモデル・イベントおよび休息日が含まれる。競技会のプログラムは交互に行われる。

奇数年に、ミドル・ディスタンス競技の予選と決勝、単一レースのロング・ディスタンス競技、リレーが実施される。スケジュールは、1 日目ミドル・ディスタンスの予選、2 日目ロング・ディスタンス競技、3 日目休息日、4 日目ミドル・ディスタンスの決勝、5 日目リレー競技とする。

奇数年の世界オリエンテーリング選手権のプログラムでは、スプリントの予選と決勝、スプリント・リレーも開催する。

偶数年に、スプリント競技の予選と決勝、ノックアウト・スプリント、スプリント・リレーが開催される。各競技は 1 日で終了しなければならない。1 日目、3 日目、5 日目は競技日で、2 日目、4 日目は休息日となる。

WCup

3.3. ワールドカップは、毎年開催される。個人ワールドカップは個人競技によって構成される。チームワールドカップはリレー競技によって構成される。

WCup

3.4. IOF 理事会は、ワールドカップ競技会の回数と形態および、必要に応じて特別規則を決める。

WCup

3.5. ワールドカップ競技会は、別の競技会と相乗りで開催されるべきである。

JWOC

3.6. ジュニア世界オリエンテーリング選手権は、毎年開催される。プログラムには、単一レースとなったスプリント、ミドル・ディスタンスの予選と決勝、単一レースとなったロング・ディスタンス、リレーとともに、開会式、閉会式、および適切な休息日およびモデル・イベントが含まれる。開催期間は、7 日間以内としなければならない。

2023 年以降はスプリントリレーをプログラムに含むが、ミドル・ディスタンスは単一レースとなる。

WOC

3.7. 個人競技では、男女ともに 3 つの平行コースによる予選が行われる。

JWOC

3.8. ミドル・ディスタンス競技では、男女ともに 3 つの平行コースによる予選が行われる。

WMOC

3.9. 世界マスターズ・オリエンテーリング選手権は、毎年開催される。プログラムには、ミドル/ロングの予選、ミドルとロング・ディスタンス競技の決勝、スプリント競技の予選と決勝が含まれる。スケジュールは、1 日目スプリントの予選、2 日目スプリントの決勝、3 日目休息日、4 日目ミドル/ロングの予選、5 日目ミドル・ディスタンスの決勝、6 日目休息日、7 日目ロング・ディスタンスの決勝とする。

ROC

3.10. 地域オリエンテーリング選手権は、少なくとも 2 年に一度開催される。

WRE

3.11. IOF 世界ランキング競技会になる競技会は、IOF が定める基準にしたがって、連盟が選択する。

4. 競技会申請 (Event applications)

4.1. どの連盟も、IOF 競技会の開催を申請することができる。

4.2. 申請は、連盟から IOF 事務局へなされなければならない。公式の申請フォームを使い、要求されたすべての情報および保証を記入しなければならない。成功裏に申請者が現れない場合は、通常、有効な申請が受理され、審査され、IOF 理事会が主催者を任命するまで、申請期間はさらに延長される。そのような場合の申請は、受け取った順に処理されて、可能なかぎり早く主催者を指定する。適切な申請が適切な期間内になされなかった場合、IOF 理事会は、競技会を開催しないと決定することがありうる。

4.3. IOF 理事会は、どの IOF 競技会にも公認料を課すことができる。公認料は、競技会の申請締め切りの最低 6 カ月前までに、通知しなければならない。

4.4. もし主催者が、規則、基準、IOF イベントアドバイザーの指示、あるいは申請時に提出した情報を守れない場合は、IOF 理事会は、競技会の認可を無効にすることができる。主催者はこの場合には損害賠償を要求することができない。

WOC

4.5. 開催申請は、選手権開催年の 4 年前の 1 月 1 日までに受領されなければならない。開催する連盟は、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会で決定される。いかなる申請も、6 カ月以内に競技会を組織する契約書に調印することによって確定されなくてはならない。さもなければ IOF 理事会は代替の決定をすることができる。

WCup

4.6. ワールドカップ競技会開催申請の案内状は、全ての連盟に送られる。各連盟は、優先度をつけて 2 つ以上の申請をしてもよい。開催申請は、開催年の 3 年前の 1 月 1 日までに受領されなければならない。開催する連盟は、同年 10 月 31 日までに IOF 理

事会にて仮決定される。いかなる申請も、6 カ月以内に競技会を組織する契約書に調印することによって確定されなくてはならない。さもなければ IOF 理事会は代替の決定をすることができる。

JWOC, WMOC

4.7. 開催申請は、競技会開催年の3年前の1月1日までに受領されなければならない。主催者および主催連盟の仮決定は、同年10月31日までに IOF 理事会でなされなければならない。仮決定された事項は、6 カ月以内に競技会を組織する契約書に調印することによって確定されなくてはならない。さもなければ IOF 理事会は、代替の決定をすることができる。

WRE

4.8. IOF 理事会は、当該年の WRE の各連盟への割り当てと満たす基準を示さなければならない。開催申請は、競技会開催前年の9月30日を締め切りとし、同年11月30日までに IOF 理事会で承認または却下の判断をしなければならない。

5. クラス (Classes)

5.1. 競技者は、性別・年齢によってクラスが分かれる。女子は、男子クラスに参加してもよい。

5.2. 20 歳以下の競技者は、その年 (calendar year) の終わりまでに達する年齢のクラスに属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる上のクラスに参加する権利がある。

5.3. 21 歳以上の競技者は、その年齢に達する年の始めから、それぞれのクラスへ属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる下のクラスに参加する権利がある。

WRE

5.4. 競技クラスは、それぞれ女子・男子別に W21 および M21 と呼ばれる。

WRE

5.5. W21 および M21 のクラスへの出場は、各連盟よりエリートの競技者として分類されるか、連盟のランキング方式での順位により選出された競技者に、限定してもよい。

WRE

5.6. 1 クラスに参加者が多すぎる場合は、最近の成績を基準にして、同等の長さのコースにランク分けして分割してもよい。有力な選手はトップランクのコースにエントリーさせる。

WOC, WCup

5.7. 女子・男子ともクラスは1つだけ設けられる。いかなる年齢制限もない。

JWOC

5.8. 女子・男子ともクラスは1つだけ設けられる。W20 あるいは M20 に参加する権利がある競技者だけが出場できる。

WMOC

5.9. 以下のクラスが提供されなければならない。

W35, M35, W40, M40, W45, M45, W50, M50, W55, M55, W60, M60,

W65, M65, W70, M70, W75, M75, W80, M80, W85, M85.

より年配のオリエンティアのためのクラスは、それらのクラスに参加者がいる場合には、提供しなければならない。

6. 参加 (Participation)

WOC, WCup, JWOC, ROC, WRE

6.1. 競技者は、1 暦年 (カレンダー・イヤー) には1つの連盟だけを代表してよい。

WOC, WCup, JWOC, ROC, WRE

6.2. 連盟を代表しているすべての競技者は、その連盟国の市民権を持っていないなければならない。パスポートまたは市民権を証明する正式書類を提示できなければならない。

WOC, WCup, JWOC

6.3. 参加する各連盟は、チームと主催者との連絡窓口となるチーム・マネージャーを任命しなければならない。チームがすべての必要な情報を受けていることを確認することは、チーム・マネージャーの義務である。

6.4. 競技者は自らのリスクで参加する。国家の法令に従って、事故に対する保険をかけることは、各連盟あるいは選手自身の責任である。

WOC

6.5. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。各連盟は、人数制限のない競技者、および複数人のチーム・オフィシャルからなるチームをエントリーさせることができる。主催者は、利用できる設備の状況に応じて、チーム当りのオフィシャル数の上限を定めてもよい。チーム・オフィシャルの上限は各チームとも同じでかつ最低 5 名としなければならない。

WOC

6.6. スプリントとノックアウト・スプリント競技には、各連盟とも最大女子 3 名・男子 3 名をエントリーすることができる。同種目の現在の世界チャンピオン、地域チャンピオンおよびワールドカップ・リーダーは、3 名以外の枠で自分の連盟からエントリーすることができる。

WOC

6.7. ミドル・ディスタンス競技には、各連盟とも最大女子 3 名・男子 3 名をエントリーすることができる。同種目の現在の世界チャンピオン、地域チャンピオンおよびワールドカップ・リーダーは、3 名以外の枠で自分の連盟からエントリーすることができる。

WOC

6.8. ロング・ディスタンス競技では、各連盟ごとにエントリーできる競技者数が制限される。数は過去 2 回の世界選手権の成績に基づく。エントリーできる数は男女別に割り当てられる。連盟は男子で 3 つの階級 (division)、女子で 3 つの階級に分けられ、ロング・ディスタンスの決勝に出場できる人数は、連盟がどの階級に属するかによって異なる。

各連盟のポイントは、前回の世界オリエンテーリング選手権での結果に基づいて計算される。WOC 2019 の場合、ポイントは WOC 2018 および WOC 2017 から計算および加算されます。WOC2021 以降は、ポイントは前回のフォレスト WOC のみの結果から計算される。

- ミドル・ディスタンス競技：1 位は 120 ポイント、2 位は 100、3 位は 80、4-10 位は 70-65-60-57-55-53-51、11-60 位は 50-49-...-1。
- ロング・ディスタンス競技：1 位は 240 ポイント、2 位は 20、3 位は 160、4~10 位は 140-130-120-114-110-106-102、11~60 位は 100-98-...-2。
- 最新の WOC (例：WOC 2019 の資格数が WOC 2018 による) では、連盟がディビジョン 1 (2 または 3) の場合、上位 3 名 (2 名または 1 名) の選手だけがポイントを獲得できる。同じ連盟の他の選手はポイントを獲得しないが、彼らの順位のポイントを他に再割り当てすることはしない。
- 2 番目に最新の WOC (例：WOC 2019 の資格数が WOC 2017 による) では、連盟が現時点でディビジョン 1 の場合は上位 2 名の選手だけがポイントを獲得でき、ディビジョン 2 または 3 の場合は最上位の選手だけがポイントを獲得できる。同じ連盟の他の選手はポイントを獲得しないが、彼らの順位のポイントを他に再割り当てすることはしない。
- リレー：1 位は 240 ポイント、2 位は 160、3 位は 130、4 位は 114、5 位は 106、6-30 位は 100-96 -...- 8-4。

どの連盟も、男女別にポイントが加算され、男子合計スコアと女子合計スコアが算出される。全体の合計が同点の場合、最も新しい世界選手権におけるリレーの順位により、どの連盟が最上位になるかを決定する。

フォレスト WOC の後、ポイントを計算してディビジョン内における連盟の順位が決まる。

- ディビジョン 2 で最高得点の連盟は、翌年ディビジョン 1 に昇格する。
- ディビジョン 1 で最低得点の連盟は、翌年にディビジョン 2 に降格する。
- ディビジョン 3 で得点上位の 2 つの連盟は、翌年ディビジョン 2 に昇格する。
- ディビジョン 2 の得点下位の 2 つの連盟は、翌年にディビジョン 3 に降格する。

規定通りに下から昇格した連盟以外の連盟が、上から降格した連盟以外と同じかそれよりも多くのポイントを獲得していた場合 - ポイントを獲得することができる選手が少ないにもかかわらず、ということになる (例えば、ディビジョン 2 で 2 位の連盟がディビジョン 1

の下から 2 番目の連盟より多くのポイントを獲得した場合) - それらの連盟もディビジョンを交代する。

- ディビジョン 1 の連盟は 3 枠
- ディビジョン 2 の連盟は 2 枠
- ディビジョン 3 の連盟は 1 枠
- 主催者となる連盟は、ディビジョンに関係なく 3 名の出場枠を持つ。それに加えて、同種目の現在の世界チャンピオン、ワールドカップ・リーダーおよび地域チャンピオンは、自分の連盟からエントリーすることができる。

ロング・ディスタンスの最終的な割り当て数は、IOF 理事会が遅くとも競技会の年の 1 月 31 日までに公表する。

(条文削除)

WOC, JWOC

6.9. スプリント・リレーには、各連盟とも 4 名のチーム・メンバーからなる 1 チームをエントリーすることができる。チームには少なくとも女子を 2 名含まなければならない。人数が欠けたチームおよび 2 つ以上の連盟の競技者からなるチームは、参加できない。いかなる場合であろうと、エントリーされた以外の競技者が競技に参加することはできない。

WOC

6.10. リレーには、各連盟とも 3 名のチーム・メンバーからなる女子 1 チームおよび男子 1 チームをエントリーすることができる。人数が欠けたチームおよび 2 つ以上の連盟の競技者からなるチームは、参加できない。いかなる場合であろうと、エントリーされた以外の競技者が競技に参加することはできない。

WCup

6.11. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。競技者は、1 つのワールドカップシリーズにおいて 1 つの連盟の代表にしかあってはいけない。連盟ごとの競技者数は IOF 世界ランキングをもとにして公表された年間の参加者枠の範囲に限定される。ワールドカップ競技会が地域選手権と共催される場合は、その地域の現地域選手権者は、その連盟の参加者枠以外に参加することができる。

JWOC

6.12. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。各連盟は、最大 12 名の競技者（女子 6 名・男子 6 名）、および 4 名のチーム・オフィシャルからなるチームをエントリーすることができる。

JWOC

6.13. すべての競技者は、3 つの個人競技を走ることができる。リレーには、各連盟とも、3 名のチーム・メンバーからなる女子 2 チームおよび男子 2 チームまでをエントリーすることができる。

JWOC

6.14. 完全なリレー・チームを構成することができない連盟は、不完全なチームまたは他連盟の競技者を含めた混成チームを構成してもよい。競技会には、一連盟あたり男子 6 名、女子 6 名以上はエントリーできない。いかなる事情であっても、エントリーした競技者以外の者が競技に参加することはできない。

WOC, WCup

6.15. 競技者は IOF の有効なアスリート・ライセンスを取得していなければならない。

7. 経費 (Costs)

7.1. 競技会を組織する経費負担は、主催者の責任とする。主催者は、競技の経費を賄うために、競技者に参加費、非競技者（チーム・オフィシャル、メディア等）に認定料を課してもよい。参加費はできるだけ低くおさえられるようにし、IOF イベントアドバイザーの承認をえなければならない。複数競技からなる競技会は、全競技会の合計参加費の代わりに、主催者は、認定料プラスエントリーする競技の参加費というオプションを競技者に提供しなければならない。

7.2. 各連盟あるいは個々の競技者は、招待状に指定された参加費を払う責任を負う。参加費を払うためのタイムリミットは、競技会の 6 週間前より早くしてはならない。支払いが遅れた場合には参加費の割り増しをしてもよい。

7.3. 遅れエントリーや変更は、主催者が対応可能ならば受け付けなければならない。参加費の割り増しをしてもよい。

WOC, WCup, JWOC

7.4. 遅れエントリーや変更については、以下が適用される。

- ・ チーム人数の締め切り後（9.6 参照）、追加エントリーの追加料金は 20%、取り消しの払い戻しは 80%とする。
- ・ チーム・メンバーの締め切り後（9.7 参照）、追加エントリーの追加料金 50%、取り消しの払い戻しは 50%とする。メンバー変更には 10 ユーロの手数料を課すこととする。

主催者は、追加エントリーへの課徴金やメンバー変更、これらの追加手数料を課すかどうかを決めることができる。払い戻しは必ず行わなければならない。

7.5. 各連盟あるいは個々の競技者は、競技会までの旅行、宿泊、食事、および宿泊地と競技会場（event centre）と競技サイト（event sites）の間に移動設備、食物、および輸送の経費を支払う責任を負う。競技サイトまで公式の輸送手段を強制する場合は、これらの経費は参加費に含まなければならない。

7.6. IOF が任命したイベントアドバイザーおよびアシスタントの開催地まで往復の旅行経費は、IOF の負担とする。コントロールのための滞っておよび競技会当日の現地での経費は、各国の規定にしたがって主催者あるいは主催者が属する連盟が支払う。

7.7. 連盟が指名した IOF イベントアドバイザーおよびアシスタントのすべての経費は、各国の規定にしたがって主催者あるいは主催者が属する連盟が負担しなければならない。

WOC, JWOC

7.8. 安価で良い水準の標準の宿泊と食事が用意できない場合は、競技者が価格帯を選択できるように、異なる水準の宿泊施設と食事を提供しなければならない。競技の参加費と、食事、宿泊費は分けて表示されなければならない。いかなる場合も、主催者が用意した宿泊施設を利用することを義務付けてはならない。

7.9. 競技会（またはその一部）が、天候・テレインの破壊等主催者のコントロールできない理由でキャンセルされた場合、主催者は、要したコストを賄うために、参加費のうち最低限の一定割合を保持することができる。

8. 競技会についての情報（Information about the event）

8.1. すべての情報および式典は、少なくとも英語には翻訳しなければならない。公式の情報は、書面で伝えなければならない。緊急の場合およびチーム・オフィシャル・ミーティングの質問に応える場合のみ、口頭でもよい。

WOC, WCup, JWOC

8.2. 主催者あるいは IOF イベントアドバイザーからの情報は、ブリテン（bulletins）の形で与えられなければならない。ブリテンは IOF 開催者から PDF フォーマットで公表されなければならない。ブリテン 3 が公表されたという通知は、参加しているすべての連盟に電子メールで送付されなければならない。もしそれ以上の情報が必要なら、すべてのしかるべき連盟に対して通知しなければならない。

WOC, WCup, JWOC

8.3. ブリテン 1（準備情報）には、以下の情報を掲載しなければならない。

- ・ 主催者、競技会のディレクター、イベントアドバイザーおよびコントローラーの氏名
- ・ 情報の問い合わせ先の電話番号、電子メールアドレス、Web ページ
- ・ 開催地
- ・ 期日と競技形態
- ・ クラスおよび参加資格
- ・ トレーニング機会
- ・ 地域の一般的な地図
- ・ 立入禁止区域
- ・ その他特記事項

WOC

- ・ 立入禁止区域で作成されたオリエンテーリング地図の最新版の高解像度のカラー・コピー

WOC, WCup, JWOC

8.4. プリテン 2(招待状)には、以下の情報を掲載しなければならない。

- ・ プリテン 1 で提供されたすべての情報
- ・ 正式なエントリー・宿泊申し込みフォーム
- ・ エントリーの締め切りと宛先 (9.6 参照)
- ・ 競技者およびチーム・オフィシャルのエントリー費、および遅れエントリーとエントリー変更の追加料金 (7.4 参照)
- ・ エントリー費払い込みの締め切りと宛先、および支払い遅延の追加料金
- ・ 宿泊施設と食事の種類と経費 (7.2 参照)
- ・ 公式の宿泊施設の予約の締め切り
- ・ 提供される輸送機関の説明
- ・ 入国許可 (ビザ) を得るための指示
- ・ トレーニング機会の詳細
- ・ テレイン、気候、および危険事項の説明
- ・ 地図の縮尺と等高線間隔
- ・ イベント・プログラム
- ・ 使用するパンチング・システム
- ・ 必要であれば、競技衣類の注意事項
- ・ 各コースのウィニング・タイムとおおよその距離
- ・ 広報担当者の電話番号、電子メールアドレス
- ・ テレインのタイプを示す最新のサンプル地図
- ・ 決まっていれば、各競技エリアとフィニッシュ会場 (arena) の正確な位置

WOC

- ・ チームあたりのオフィシャルの人数

WCup, JWOC

- ・ 立入禁止区域で作成されたオリエンテーリング地図の最新版の高解像度のカラー・コピー。

WOC, WCup, JWOC

- ・ メディア代表者および参加者以外の連盟の代表者の登録のための指示

WOC, WCup, JWOC

8.5. プリテン 3(競技会情報)には、以下の情報を掲載しなければならない。

- ・ 参加者の正確な人数を通知する締め切り (9.6 参照)
- ・ 参加者の名前を通知する締め切り (9.7 参照)
- ・ 最終的な名前のエントリーおよびスタートグループの配分のためのタイムテーブルを含む競技会の詳細なプログラム
- ・ テレインの詳細
- ・ 適用しないことを認められたすべての規則逸脱事項
- ・ 競技事務局の住所、電話番号、電子メールアドレス
- ・ 宿泊設備および食事の詳細
- ・ 移動のスケジュール
- ・ 各個人競技のコースおよびリレーの各レグ毎の、コース距離、全登距離、コントロールの数、給水コントロールの数
- ・ チーム・オフィシャルのミーティング
- ・ 各競技エリアとフィニッシュ会場の正確な位置

WOC, WCup, JWOC

8.6. プリテン 4(追加の競技会情報)は、競技者が現地に到着した時に配布されねばならず、以下の競技会の最終的な詳細情報が

掲載されていなければならない。

- ・ 反ドーピングのための必要条件
- ・ 競技会に関連したすべての特別規則
- ・ 承認された追加の規定と規則の逸脱
- ・ プレ・スタートで配布されるコントロール位置説明の寸法
- ・ 申し立ての制限時刻
- ・ 申し立てを行う場所
- ・ 最大競技時間
- ・ エントリー状況のサマリー
- ・ 裁定委員の名前と連盟
- ・ 隔離ゾーンの場所および競技者・オフィシャルがその中に入らなければならない時間

WOC, JWOC

8.7. プリテン 1 は競技会の 24 カ月前に、プリテン 2 は 12 カ月前に、プリテン 3 は 3 カ月前に発行されなければならない。

WCup

8.8. プリテン 1/2 は競技会の 12 カ月前に、プリテン 3 は 2 カ月前に発行されなければならない。

WMOC, WRE

8.9. 主催者からの情報は、2 つのプリテンの形で与えられなければならない。プリテン 1 は IOF の Web サイトを通じてインターネット上で利用可能でなければならない。プリテン 2 は、すべての競技者に配布されなければならない。

WMOC

8.10. プリテン 1 は競技会の 18 カ月前には利用可能でなければならない。プリテン 2 は競技会の 1 カ月前には利用可能でなければならない。

WRE

8.11. プリテン 1 は競技会の 4 カ月前には利用可能でなければならない。プリテン 2 は競技会の 1 週間前には利用可能でなければならない。

WMOC, WRE

8.12. プリテン 1（準備情報と招待状）には、以下の情報を掲載しなければならない。

- ・ 主催者、競技会のディレクターおよびコントローラーの氏名
- ・ 情報の問合わせ先の電話番号、電子メールアドレス、Web ページ
- ・ 開催地
- ・ 期日と競技形態
- ・ クラスおよび参加資格
- ・ 地域の一般的な地図
- ・ 立入禁止区域
- ・ その他特記事項
- ・ 正式なエントリー・フォーム
- ・ エントリーの締め切りと宛先
- ・ 競技者のエントリー費
- ・ エントリー費払い込みの締め切りと宛先
- ・ 宿泊施設と食事の種類と経費
- ・ 提供される輸送機関の説明
- ・ 入国許可(ビザ)を得るための指示
- ・ テレイン、気候、および危険事項の説明

- ・地図の縮尺と等高線間隔
- ・イベント・プログラム
- ・使用するパンチング・システム
- ・必要であれば、競技衣類の注意事項
- ・ウイニング・タイム
- ・トレーニング機会の詳細

WMOC

- ・トレインのタイプを示す最新のサンプル地図

WMOC

- ・立入禁止区域で既存のオリエンテーリング地図のコピーを得る方法についての情報

WMOC, WRE

8.13. プリテン 2（競技会情報）には、以下の情報を掲載しなければならない。

- ・スタートリスト含む競技会の詳細なプログラム
- ・トレインの詳細
- ・エントリー状況のサマリー
- ・適用しないことを認められたすべての規則逸脱事項
- ・競技事務局の住所、電話番号、電子メールアドレス
- ・移動のスケジュール
- ・各個人競技のコースおよびリレーの各レグ毎の、コース距離、全登距離、コントロールの数、給水コントロールの数
- ・プレ・スタートで配布されるコントロール位置説明の寸法
- ・申し立ての制限時刻
- ・申し立てを行う場所
- ・最大競技時間
- ・裁定委員の名前と連盟

ROC

8.14. ヨーロッパオリエンテーリング選手権のプリテンはワールドカップのプリテンに準拠しなければならない。

他の地域オリエンテーリング選手権のプリテンは世界ランキング競技会のプリテンに準拠しなければならない。

9. エントリー (Entries)

9.1. エントリーは、プリテン 2 に記載されたインストラクションにしたがって行われなければならない。少なくとも、各競技者について以下の細目を提出しなければならない： 姓名、性別、誕生年、連盟。またチーム・オフィシャルの名前を提出しなければならない。遅れエントリーは、主催者が対応可能ならば受け付けなければならない。参加費の割り増しをしてもよい。

9.2. 競技者は、いかなる競技でも、1つの競技について1つのクラスにのみエントリーできる。

9.3. 参加費が支払われないか、支払いについてのいかなる合意もなされない場合は、主催者はその競技者またはチームの出走を取りやめさせてもよい。

WOC, JWOC

9.4. 宿泊の予約申込みおよび予約金は、プリテン 2 で記載された期日までに、主催者に届けなければならない。

WOC, WCup, JWOC

9.5. 競技者は、所属する連盟からのみ選出され、エントリーできる。

WOC, WCup, JWOC

9.6. 各性別の競技者の総数、各競技のエントリー数、リレー・チームの数、チーム・オフィシャルの数、およびチーム監督の名前・住所・

電話／ファックス番号を記載したエントリーを、「チーム人数の締切」までに主催者に届けなければならない。締切は、遅くとも競技会の2カ月前より早くに設定してはならない。

WOC, WCup, JWOC

9.7. 各競技者の名前・性別とチーム・オフィシャルの名前は、「チームメンバーの締切」までに主催者に届けなければならない。締切は競技会の最初のレースの10日前より早くに設定してはならない。競技会前日の正午までは、チームの選手変更ができる。それ以降は、いかなる状況であっても、チームに一切の変更はできない。

WOC, WCup, JWOC

9.8. 競技者の名前および、要求された場合はスタートグループへの割り当ては、「競技エントリーの締切」までに主催者に届けなければならない。締切は、個人競技の前日の正午より早くに設定してはならない。

WOC, WCup, JWOC

9.9. 競技者の名前および出走順は、「競技エントリーの締切」までに主催者に届けなければならない。締切は、リレー競技の前日の正午より早くに設定してはならない。

WOC, WCup, JWOC

9.10. 個人競技においては、競技エントリーの締め切りから当該クラスのスタートが始まる2時間前までの間に、正当な理由（例えば、事故あるいは病気）があれば、選手交代することができる。スタートグループや予選枠を変更することはできない。予選の後の決勝レースや、複数レース競技で最初のレースを終えた後で、交代することはできない。

WOC, WCup, JWOC

9.11. リレーでは、エントリー締切後のメンバーおよび／または出走順の変更は正当な理由がある時のみ認められる。（例えば、事故や病気など）変更は、リレーのスタートの最低2時間前までに主催者に届けなければならない。

9.12. 個人競技では、スタートが始まる2時間以内には競技者を交代することはできない。リレーでは、チーム・メンバーおよび出走順をリレーのスタートの2時間以内に変更してはならない。

WOC, JWOC

9.13. 競技会前日の正午以降は、エントリーしたチームの中でしか競技者の交代をすることはできない。

WOC

9.14. 予選レースでは、各連盟は競技者を3つのスタートグループ（早い組、真ん中の組、遅い組）に対して、各組最大2名までの競技者を割り当てなければならない。1つのグループに2人目の競技者を割り当てるには、各グループに1人は競技者を割り当てていなければならない。もし連盟が競技者のグループへの割り当てをしなかった場合は、主催者が割り当てを決めなければならない。

JWOC

9.15. 各個人競技では、各連盟は3つのスタートグループに対して、各組最大2名までの競技者を割り当てなければならない。1つのグループに2人目の競技者を割り当てるには、各グループに1人は競技者を割り当てていなければならない。もし連盟が競技者のグループへの割り当てをしなかった場合は、主催者が割り当てを決めなければならない。

WMOC

9.16. エントリーの最終締切日は、イベント開始の6週間前より早くしてはならない。

10. 旅行および輸送 (Travel and transport)

WOC, WCup, JWOC

10.1. 会場までの交通は、参加する各連盟で責任を持つ。

WOC, JWOC

10.2. 要請があれば、主催者が、最も近い国際空港あるいは駅から、競技会場あるいは宿泊施設までの輸送チームを手配しなければならない。このサービスにチームが金銭負担をすることとしてもよい。

WOC, WCup, JWOC

10.3. 宿泊施設、競技会場、競技サイト等との間の輸送は、主催者が手配しても、あるいはチームが手配してもよい。要請があれば、主催者が競技会の期間中のすべての必要な輸送手段を手配しなければならない。このサービスにチームが金銭負担をすることとしてもよい。

10.4. 主催者は、競技サイトまでの移動は公式の輸送手段を使用することを義務づけてもよい。

11. トレーニングおよびモデル・イベント (Training and model event)

11.1. 要請があれば、競技に先立ってトレーニングの機会を提供しなければならない。

WOC, WCup, JWOC, WMOC

11.2. 競技会開始の前日以前に、主催者は、トレインのタイプ、地図の品質、コントロールの特徴物、および、コントロールや給水ポイントおよびマーカー・ルートの設置についてデモするモデル・イベントを設けなければならない。

11.3. 競技者、チーム・オフィシャル、IOF 役員、およびメディア代表者は、モデル・イベントに参加する機会を提供されなければならない。

11.4. IOF イベントアドバイザーが必要だと判断すれば、さらに追加でモデル・イベントを実施しなければならない。

11.5. IOF イベントアドバイザーが適切と判断すれば、そのモデル・イベントは競技当日にスタートが始まるのに先立って行ってもよい。

WOC

11.6. すべての連盟に等しく、トレーニングの機会を提供しなければならない。主催者は、選手権までの 18 カ月の間に、トレーニングの機会を提供しなければならない。トレインと地図は、選手権のものとはできるかぎり類似しているべきである。

12. スタート順および枠の配分 (Starting order and heat allocation)

12.1. インターバル・スタートでは、競技者は等しいスタート間隔で一人ずつスタートする。マス・スタートでは、同一クラスのすべての競技者が、同時にスタートする。リレーでは、チームの第一走者のみがマス・スタートを適用する。チェイシング・スタートにおいては、前回までの結果に応じたスタート時刻と間隔で、競技者が一人ずつスタートする。

12.2. スタート順は、IOF イベントアドバイザーの承認をえなければならない。スタート抽選は、公開の場でも非公開の場で行ってもよい。抽選は手で行ってもコンピューターを使用してもよい。

12.3. スタート・リストは、競技の前日以前で、かつ競技規則 13.1 項にしたがって開催されなければならないチーム・オフィシャル・ミーティングの前までに公表しなければならない。予選が決勝と同じ日に開催される場合は、決勝のスタート・リストは遅くともスタート開始の 1 時間前までに公表しなければならない。

12.4. たとえ競技者が到着してなくても、正しくエントリーされたすべての競技者およびチームの名前を、抽選の対象としなければならない。名前のないエントリー（ブランク）は、抽選の際に無視される。

WOC

12.5. 予選・決勝レース競技の決勝を除き、インターバル・スタートのスタート順はグループ毎に抽選しなければならない。予選レースにおいては、3つのスタートグループ（早い組、真ん中の組、遅い組）の中で抽選が行われなければならない。単一レースにおいては、WOCの最初の競技の前日正午時点で公表された IOF ランキングと、その競技形式での前回 WOC の順位に基づいてグループ分けされる。

最近 3 回の WOC の当該種目で 3 位以内に入ったことのある選手は、スタートグループ 1 から出走する。このグループは、エントリーした選手の中でトップランクの 10 名以内で構成される。

その他の選手で、最近 3 回の WOC の当該種目で 4~6 位に入ったことのある者は、スタートグループ 2 から出走する。このグループは、次のトップランクの 15 名以内で構成される。

それ以降のスタートグループは、15 名ずつ（最終のスタートグループは 29 名まで）ワールドランキング順位に基づいて設定される。

それらはスタートグループ 3、4 などとなる。必要であれば、同じワールドランキングポイントを持つランナーの順序は、コイントスによって

決定する。

各グループ内でスタート順はランダムとする。

通常は、番号の最も大きいスタートグループを最初として、降順にスタートする。通常は、スタートグループ 1 が全体の最後にスタートすることになる。

メディア報道を改善するために必要であれば、SEA はスタートグループの順番を変える権限を持つ。スタートグループ順の変更はブリテン 3 に掲載されていなければならない、それ以降に変更することはできない。

規則 9.10 は WOC ロング・ディスタンス競技には適用されず、後での選手交代は認められない。

JWOC

12.6. 予選・決勝レース競技の決勝を除き、インターバル・スタートのスタート順は抽選としなければならない。通常は 3 つのスタートグループ（早い組、真ん中の組、遅い組）の中で抽選が行われなければならない。規則 12.7 を適用する。

WOC, WCup, JWOC

12.7. インターバル・スタートでは、同じ連盟からの競技者が連続してスタートしてはならない。もし抽選で連続したときには、次の競技者を彼らの間に入れなければならない。もし抽選の終わりやスタートグループの最後で連続したときには、その前の競技者を間に入れなければならない。スタート順が無作為ではなく実力に基づく場合は、抽選は最高位の選手から始まり、最下位の選手が最後になるようにする。

WOC, WCup, JWOC

12.8. 予選・決勝レース競技では、以下の要求がそれぞれ満たさせられるように、予選のスタート抽選を行わなければならない：

- ・可能な限り、各枠コースの強度は同等としなければならない。
- ・同じ連盟からの競技者が同じ枠であった場合、続けてスタートさせてはならない。
- ・異なる枠へ競技者を配分するには、同じ連盟からの競技者が、その枠の中で数学的にみて可能な限り等しく配分しなければならない。

どちらか一方を選択

- ・最終のスタート時刻を除き、各スタート時刻に平行コースの枠数と同じ数だけの競技者がスタートしなければならない。

または

- ・競技者は分間隔で枠 1、枠 2、枠 3、枠 1、枠 2（3 つの枠がある場合）のようにスタートしなければならない。

12.9. 予選・決勝レース競技で、2 名またはそれ以上が予選通過の最下位で同順位となった場合は、全員が決勝に進出する。

WOC

12.10. スプリントの決勝には、それぞれの予選枠で 15 位以内に入った競技者のみが参加できる。

ミドル・ディスタンス競技の決勝には、それぞれの予選枠で 15 位以内に入った競技者のみが参加できる。

さらに以下にしたがって最大 60 名（(b)の条件になる）までが追加で選出される。

- いづれの枠でも 15 位以内の選手がいない連盟で、予選での順位が最上位の選手（同じ国の 2 人の競技者が異なる枠で同順位となった場合は、各枠の勝者とのタイム差が少ない者）は、予選での順位にしたがって決勝に進む。
- (a)において、異なる国からの 2 人以上の選手が最終選考で並んだら、全員が決勝に進むこととしてもよい。
- (a)または(b)において決勝に進むためには、競技者は予選レースの勝者のタイムの 100%以内でなければならない。

ノックアウトの決勝には、各予選枠で 12 位以内に入った選手だけが進むことができる。36 名の競技者がエリミネーション・ラウンドの対象となる。対象となる選手または予選において同順位の場合は、IOF スプリント・ワールドランキングにおける順位の高い、より高いランクのランナーとの順位を考慮して決める。トップ 36 名の予選の序列は次のようになる。1H3、1H2、1H1、2H3、2H2、2H1、…12H3、12H2、12H1（1H3 は 3 枠の 1 位を表す）。

JWOC

12.11. ミドル・ディスタンス競技では、それぞれの予選枠で 20 位以内に入った競技者のみが A 決勝に進出できる。21 位から 40 位の競技者は B 決勝となり、残りの競技者は C 決勝となる。予選で順位のつかなかった競技者は、そのクラスで一番下のランクの選手の

前に出走することができるが、成績リストでは順位なしとしなければならない。

- 12.12. 予選・決勝レース競技で、決勝のスタート順（チェイシング・スタートを除く）は、予選順位の逆順としなければならない。最も上位の競技者が最後にスタートする。同タイムの場合にはくじ引きで決めなければならない。例えば、仮に 2 人の競技者が第 1 枠で同着 6 位になったとき、この規定を満たすためには、どちらが第 1 枠の 6 位扱いでどちらが 7 位扱いするかをコイン・トスで決めなければならない。異なる枠において同順だった競技者は、枠のナンバー順にスタートする。例えば、1、2、3... ; したがって最も大きいナンバー枠の勝者が最後にスタートすることになる。

WOC, JWOC

12.13. (削除)

- 12.14. マス・スタートの抽選の前に、いろいろなコースの組み合わせそれぞれに、スタート番号を割り当てておかねばならない。コースの組み合わせは、最終の競技者がスタートするまで、秘密にしておかなければならない。

WOC, JWOC

- 12.15. 予選における各競技者の枠の配分は、IOF イベントアドバイザーの管理のもとで抽選しなければならない。

WOC, JWOC

- 12.16. リレーでは、エントリーしたチームは、直近の当該リレー選手権の順位にしたがってスタート番号が与えられる。直近の選手権で順位がつかなかった者は、最後に続けてアルファベット順でスタート番号が与えられる。いろいろなコースの組み合わせの配分は、IOF イベントアドバイザーの同席のもとで行わなければならない。配分は、最終の競技者がスタートするまで、秘密にしておかねばならない。

WOC, WCup

- 12.17. スプリントリレーでは、最初と最後のレッグは女子でなければならない。

JWOC

- 12.18. 人数の揃わないリレー・チームも、複数の連盟からの競技者からなるチームも、正規のリレー・スタートと同時にスタートすることができる。

- 12.19. インターバル・スタートにおけるスタート間隔は、通常ロング・ディスタンス競技は 3 分または 2 分、ミドル・ディスタンス競技は 2 分、スプリントは 1 分とする。

WOC

- 12.20. ロング・ディスタンス競技のスタート間隔は 3 分とする。ミドル・ディスタンス競技のスタート間隔は 2 分とする。スプリント競技のスタート間隔は決勝も予選も 1 分または 1.5 分とする。ロング・ディスタンス競技および／またはミドル・ディスタンス競技を TV でフル・ライブ中継するために、スタート間隔を短くすることを要求される場合には、ロング・ディスタンス競技で 2 分および／またはミドル・ディスタンス競技で 1.5 分としてもよい。

JWOC

- 12.21. ロング・ディスタンス競技のスタート間隔は 2 分とする。しかしながら、一クラスが 180 名を超える場合は、1.5 分間隔としてもよい。ミドル・ディスタンス競技の予選のスタート間隔は 3 分とする。ミドル・ディスタンス競技の A 決勝のスタート間隔は 2 分とする。ミドル・ディスタンス競技の B 決勝と C 決勝のスタート間隔は 1 分とする。

WMOC

- 12.22. 予選レースでは、それぞれのクラスの競技者は、抽選により平行コースの枠に割り当てられる。同じクラス内のそれぞれの枠は、数学的にみて可能な限り等しい大きさにしなければならない。かつ競技者が 80 名を越えないようにする。枠の数はできるだけ少なくしなければならない。競技者が 80 名以下の場合はそのクラスの枠は一つとする。同じ連盟からの競技者と前回の WMOC の入賞者は、それぞれの枠に等しく配分されなければならない。

WMOC

- 12.23. スプリントとミドル・ディスタンスの決勝進出は予選の順位によって決定する。それぞれの予選枠で最も成績のよい競技者が A 決勝の参加資格を得る。それに次ぐ競技者は B 決勝の参加資格を得る、など。

- ・ 161 名以上の予選出場者がいる場合は、それぞれの予選枠から A 決勝へ進出する者は同数としなければならない。80 名または 80 以上で最も小さい数の人数になるように計算しなければならない。B 決勝などについても同様に計算するが、3 ランク以

上の決勝があって、最下位ランクのレースの資格者が 20 名以下になったときは、その 1 つ上のランクに移してもよい。成績の下位に向かって、1 つまたはそれ以上のヒートで順位のついた競技者の決勝への割り当てが終了したら、その決勝が少なくとも 80 名になるか、またはすべての順位のついた競技者が割り当てられるまで、残りのヒートから競技者を順に充当する。

- ・ 予選出場者が 20 名から 160 名の場合は、できるだけ同数になるように A 決勝と B 決勝に分割し、最低でも半数は A 決勝にしなければならない。
- ・ 予選出場者が 20 名以下の場合は、全員が A 決勝となる。

もし 2 人以上の競技者が決勝資格順で同順位になったら、両者ともその決勝の参加資格を得られなければならない。

予選で失格となった競技者または予選に出走しなかった競技者は、そのクラスで一番下のランクの選手の前に出走することができるが、成績リストでは順位がつかない。

WMOC

12.24. ロング・ディスタンスの決勝はミドル・ディスタンスと同じ構成とするが、ミドル・ディスタンスの結果によって競技者がより上位の決勝へ格上げになったり下位に格下げとなる場合がある。

この規則における格上げと格下げの決定においてだけは、下位ランクのミドル・ディスタンスの決勝でよいレースをした競技者は、例えば予選で失格となったためにミドル・ディスタンスの結果で順位が付かなかったとしても、順位があるものとみなされる。

まず、ロング・ディスタンスにエントリーしなかった競技者は除かれ、これを行った後の人数に対して、以降の手続きを行う。

格上げと格下げは以下のように実施される。

- ・ 当該クラスでミドル・ディスタンスが単一レースの A 決勝であった場合は、単一レースのロング・ディスタンス A 決勝と同じ構成とする。
- ・ ミドル・ディスタンスで当該クラスに決勝が 2 つ (A と B) あった場合。
 - ・ A 決勝の下位 10% (切り捨て) は B 決勝へ格下げとなる。
 - ・ A 決勝の人数は、B 決勝から次に上位の競技者を格上げすることで、ミドル・ディスタンスの A 決勝の人数に戻される。
- ・ ミドル・ディスタンスで当該クラスに 3 つ以上の決勝があった場合は、下記のテーブルにしたがって行う。

		Middle final results				
		A	B	C	D	E
3 finals A,B,C	Promotions		top 10 to A	top 2 to A; next 8 to B		
	relegations	bottom 12 to B	bottom 10 to C			
4 finals A,B,C,D	Promotions		top 12 to A	top 1 to A; next 9 to B	top 2 to A; next 8 to C	
	relegations		bottom 15 to B	bottom 12 to C	bottom 10 to D	
5 finals A,B,C,D,E	Promotions		top 14 to A	top 1 to A; next 10 to B	top 1 to A; next 9 to C	top 2 to A; next 8 to D
	relegations	bottom 18 to B	bottom 14 to C	bottom 12 to D	bottom 10 to E	

ミドル・ディスタンス決勝において、2 人以上の競技者が格上げ資格の最後の候補に同順位で並んだ場合は、ともに格上げとなる。格下げの最後の候補に同順位で並んだ場合は、ともに格下げとなる。

各予選枠における上位 4 名には、仮にミドル・ディスタンスに出走したとしてもその成績にかかわらず、ロング・ディスタンス A 決勝でその個人用に出走枠が保証される。上記の基準によって A 決勝への参加資格を失っても、追加の出走者として A 決勝に加えられる。ミドル・ディスタンスに出走しなかった場合は、保証された出走枠はただ失われる。

最後に、ロング・ディスタンス競技のみにエントリーした競技者が最下位の決勝に追加される。

ロング・ディスタンス決勝で順位がつくために、ミドル・ディスタンスの決勝で順位をつくことが必要条件となるわけではない。

各ロング・ディスタンス決勝では、競技者が走ったミドル・ディスタンス決勝順位の逆順のグループになる。例えば、3つのミドル・ディスタンス決勝があった場合、ロングのB決勝でのスタート順は、ミドルのC決勝から格上げした者が最初にスタートし、次にミドルのB決勝を走った者、そして最後のグループはA決勝から格下げとなった者となる。グループの中においてもスタート順は決勝での順位の逆で、すなわち最も速かった者が最後にスタートする。ミドル・ディスタンスで順位が付かなかった者は、順位が付いた人の前に、ランダムな順序で自分のグループでスタートする。

WMOC

12.25. レースのスタート間隔は通常1分とする：

スプリント予選	1分
スプリント決勝	1分
ミドル/ロング予選	1分
ミドルA決勝	2分
ミドルその他決勝	1分
ロングすべての決勝	2分

すべての種目の予選ヒートと決勝において、少数の競技者しかいなければ、全体のスタート時間が80分以内（ミドルのA決勝とロングの決勝では160分以内）におさまるのであれば、より長いスタート間隔としてもよい。

12.26. ハックアウト・スプリントの4つのステージは以下のように組織される。

- 予選ステージ（Qualification stage）：インターバル・スタートで3つのパラレル・ヒートを作る。スタート間隔は1分とし、3人ずつ同時にスタートする。

- 各ヒートで上位12名の選手が準々決勝の資格を得る。

準々決勝（Quarter-finals）：6つの準々決勝レースに、各6名の選手が出走する。マス・スタートとする。

準々決勝への選手の割り当て方法には、2つの選択肢がある。

- a) 資格を得た選手が、予選の順位で6位→1位、7位→36位の順番で、自分で準々決勝ヒートを選択する。
- b) 準々決勝の資格を得た選手を下表のように割り当てる（1H3はヒート3の1位を表す）。予選ヒートが1つしかない場合は、割り当ては括弧内の順位とする。

QF1	QF2	QF3	QF4	QF5	QF6
1H3 (1)	2H2 (6)	1H1 (2)	2H3 (5)	1H2 (3)	2H1 (4)
4H1 (12)	3H3 (7)	4H2 (11)	3H1 (8)	4H3 (10)	3H2 (9)
5H2 (13)	6H1 (18)	5H3 (14)	6H2 (17)	5H1 (15)	6H3 (16)
8H3 (24)	7H2 (19)	8H1 (23)	7H3 (20)	8H2 (22)	7H1 (21)
9H1 (25)	10H3 (30)	9H2 (26)	10H1 (29)	9H3 (27)	10H2 (28)
12H2 (36)	11H1 (31)	12H3 (35)	11H2 (32)	12H1 (34)	11H3 (33)

どちらの選択肢とするかはIOF イベントアドバイザーが承認し、ブリテン4に掲載しなければならない。

各準々決勝で上位3名の選手が準決勝の資格を得る。

- 準決勝（Semi-finals）：3つの準決勝レースに、各6名の選手が出走する。マス・スタートとする。

準々決勝1と2で上位3名の選手を準決勝1に割り当てる。準々決勝3と4で上位3名の選手を準決勝2に割り当てる。

準々決勝5と6で上位3名の選手を準決勝3に割り当てる。

各準決勝で上位2名の選手が決勝の資格を得る。

- 決勝（Final）：決勝は6名の選手によりマス・スタートで行われる。

どのラウンドでもどの予選でも同順位の場合、選手はスプリントの世界ランキング（競技会の最初のレース前の正午時点）にしたがって順位付けされる。それでも同点の選手はランダムなくじで分ける。

いかなるラウンドでも完走者が、次のラウンドで空いている場所よりも少ない場合、次のラウンドの該当場所は空席としなければならない。すべてのラウンドのタイムスケジュールは、主催者とSEAの間で合意されなければならない。予選レースのスタート順抽選が行

われた後は、選手を交代させてはならない。

競技に参加する参加者が 45 名未満の場合、予選ヒートの数を減らし、ノックアウト・ステージの数を減らすことがありうる。

13. チーム・オフィシャル・ミーティング (Team officials' meeting)

WOC, WCup, JWOC

13.1. 主催者は、各競技の前までにチーム・オフィシャル・ミーティングを開催しなければならない。このミーティングは遅くとも 19 : 00 ま
でに開始しなければならない。IOF イベントアドバイザーがこのミーティングを進行または監督しなければならない。

WOC, WCup, JWOC

13.2. ミーティングに先立って、競技に関する情報(スタート・リスト、輸送スケジュール、プリテン 4 からの変更、天気予報 等) を配布
しなければならない。

WOC, WCup, JWOC

13.3. チーム・オフィシャルは、ミーティング中に質問をする機会が与えられなければならない。

WMOC, WRE

13.4. チーム・オフィシャル・ミーティングは行わない。

14. テレイン (Terrain)

14.1. テレインは、競技性を確保したオリエンテーリング・コースを設定するのに適していて、付録 6 に記載の基準に適合していなければ
ならない。テレインと競技会場の選定、およびコース設計の際には、ライブニッツ協定の目標を考慮しなければならない。

14.2. 競技テレインは、どの競技者も不当に優位に立つことのないよう、競技の前に可能な限り長くオリエンテーリングに利用されていな
くてはならない。

14.3. 競技が決定すれば、できるだけ早急にテレインへの立ち入りを禁止しなければならない。もしそれが不可能ならば、できるだけ早
急にテレインへアクセスする取り決めに公表しなければならない。

14.4. 立入禁止テレインにアクセスする必要がある場合は、主催者が要求を出さなければならない。

14.5. エリア内では、自然保護、営林、狩猟 等のすべての権利が尊重されなければならない。

15. 地図 (Maps)

15.1. 地図、コース・マーキング、および追加印刷は、「IOF オリエンテーリング地図のための国際仕様」または「IOF スプリント・オリエンテ
ーリング地図のための国際仕様」にしたがってなされなければならない。逸脱する場合は IOF 理事会の同意を必要とする。

15.2. ロング・ディスタンス競技の地図縮尺は 1:15000 でなければならない。ミドル・ディスタンス競技およびリレーの地図縮尺は
1:10000 でなければならない。スプリント競技 (スプリントリレーを含む) の地図縮尺は 1:4000 でなければならない。

15.3. 地図の間違または地図が印刷された後でテレインに変化があり、それが競技会に影響があるのであれば、地図に重ね刷りしな
ければならない。

15.4. 地図は、湿気およびダメージに耐えるものでなければならない。

15.5. もし競技エリアに以前に作られたオリエンテーリング地図があれば、最新版の高解像度のカラー・コピーをすべての競技者に、競技
に先立って提示する。

15.6. 競技当日は、主催者が許可するまで、競技者あるいはチーム・オフィシャルは競技のエリアを記したいかなる地図の使用も禁止
する。

15.7. 競技用の地図は、コースを走る競技者が必要とする以上に大きくしてはならない。

WMOC

15.8. ミドルおよびロング・ディスタンスの地図の縮尺は 1:0000 または 1:7500 でなければならない。スプリントの地図の縮尺は 1:4000 または 1:3000 でなければならない。

ROC, WRE

15.9. ロング・ディスタンスの地図の縮尺は 1 : 15000、または (IOF イベントアドバイザーが承認すれば) 1 : 10000 でなければならない。

WOC, WCup, JWOC, WMOC

15.10. IOF および加盟連盟は、主催者へ料金を払わなくても、公式出版物および自身の Web サイトにコースを記載した競技会地図を複製する権利がある。

16. コース (Courses)

16.1. IOF コースプランニングの原則(付録 2 参照)、競技の構成 (付録 6 参照) およびライブニッツ協定(付録 5 参照)に従わなければならない。

16.2. コースの水準は、国際オリエンテーリング競技会にふさわしいものでなければならない。競技者のナビゲーション技能、集中力、および走る能力が試されなければならない。すべてのコースが様々な範囲のオリエンテーリング技術を要求されなければならない。

16.3. コース距離は、スタートからコントロールを經由してフィニッシュまでの直線距離で示されなければならない。ただし、物理的に通行不能な妨害 (高いフェンス、湖、通れない崖 等)、立入禁止エリア、およびマート・ルートは例外とする。

16.4. 全体の登距離は、最も短く理にかなったルートに沿った登距離をメートルで与えられなければならない。

16.5. 予選レースでは、平行する枠のコースは、できる限り同じ距離で同じ水準に近づけなければならない。

16.6. リレー競技では、コントロールはチームによって異なった並びにして、全体としては全チームが同じコースを走ることになっていなければならない。トレインとコース・コンセプトによっては、レッグの距離は著しく異なるようにしてもよいが、レッグ毎のウィニング・タイムの合計は規定通りになっていなければならない。全チームが、異なる距離のレッグを同じ順番で走らなくてはならない。

16.7. 個人競技において、コントロール順を競技者ごとに異なる並びにしてもよい。しかし、すべての競技者は、ノックアウト・スプリントで「コース選択」にフォーキング (forking) が採用されている場合 (この場合は、各選手は開始 20 秒前に異なる 3 つのコース地図の中から 1 つを選択する) を除き、全体としては同じコースを走らなければならない。

WOC

16.8. たいていの場合は、同時にレースが進行するのであれば、決勝レースでは女子のコースと男子のコースで別々のコントロールを使用しなければならない。

WOC, WCup

16.9. コースは、以下のウィニング・タイム (分) に設定されなければならない :

女子	男子	
45	60	ロング・ディスタンス予選
70 - 80	90 - 100	ロング・ディスタンス決勝
25	25	ミドル・ディスタンス予選
30 - 35	30 - 35	ミドル・ディスタンス決勝
12 - 15	12 - 15	スプリント予選
12 - 15	12 - 15	スプリント決勝
12 - 15	12 - 15	スプリントリレーの各レッグ
55 - 60		スプリントリレーで各レッグで最も速いタイムの合計
30 - 40	30 - 40	リレーの各レッグ
90 - 105	90 - 105	リレーで各レッグの最も速いタイムの合計
8 - 10	8 - 10	ノックアウト・スプリント予選

6 - 8 6 - 8 ジャックアウト・スプリントのマス・スタート・レース

JWOC

16.10. コースは、以下のウイニング・タイム（分）に設定されなければならない：

女子	男子	
55	70	ロング・ディスタンス
20 - 25	20 - 25	ミドル・ディスタンス
12 - 15	12 - 15	スプリント
30 - 40	30 - 40	リレーの各レッグ
90 - 105	90 - 105	リレーで各レッグの最も速いタイムの合計

WMOC

16.11. コースは、以下のウイニング・タイム（分）に設定されなければならない：

クラス	ミドル／ロング予選	ミドル決勝	ロング決勝
W35	40	30-35	55
W40	40	30-35	50
W45	35	25-30	45
W50	35	25-30	45
W55	35	25-30	45
W60	35	25-30	45
W65	35	25-30	45
W70	35	25-30	45
W75	35	25-30	45
W80	35	25-30	45
W85	35	25-30	45
M35	50	30-35	70
M40	50	30-35	65
M45	45	25-30	60
M50	45	25-30	55
M55	40	25-30	50
M60	40	25-30	50
M65	40	25-30	50
M70	40	25-30	50
M75	40	25-30	50
M80	40	25-30	50
M85	40	25-30	50

スプリント・レースのコースは 12～15 分のウイニング・タイムに設定されなければならない。

17. 制限されているエリア、およびルート (Restricted areas and routes)

17.1. 環境保護のために主催している連盟によって定められた規則や、主催者からのそれに関連する指示は、競技会に関わるすべての人々によって遵守されなければならない。

17.2. 立入禁止または危険なエリア、禁じられているルート、横切ってはならない線状特徴物などは、地図上で表記しなければならない。競技者が明瞭に判断できないところでは、現地でも標識をつけなければならない。競技者は、このようなエリア、ルートあるいは以

下の記号で記した特徴物に立ち入ったり、それに沿って走ったり横切ったりしてはならない。

フォレスト

ISOM 520 立入禁止区域

ISOM 708 立入禁止の境界線

ISOM 709 立入禁止区域

ISOM 711 通行禁止のルート（競技者は通行禁止のルートを直接に横断することは許される）

スプリント

ISSprOM 201 通行不能ながけ

ISSprOM 301 渡れない水域

ISSprOM 307 渡れない湿地

ISSprOM 411 通行不能な植生

ISSprOM 515 通行不能の壁

ISSprOM 518 通過不能の柵または手すり

ISSprOM 520 立入禁止区域

ISSprOM 521 建物

ISSprOM 529 通行不能の目立つ線状特徴物

ISSprOM 708 立入禁止の境界

ISSprOM 709 立入禁止区域

ISSprOM 714 特設の建造物もしくは閉鎖区域

17.3. ルートの誘導、横断するポイントおよび通行箇所は、地図および現地で明瞭に表示しなければならない。競技者は、コース途中の誘導箇所は、すべてそれに沿って進まなければならない。

18. コントロール位置説明 (Control descriptions)

18.1. コントロールの正確な場所をコントロール位置説明によって明示する。

18.2. コントロール位置説明は、「IOF コントロール位置説明」に定められた記号の形式で作成しなければならない。

18.3. コントロール位置説明は、そのコースのコントロール順に記載したものを、競技で使う地図の前面に貼付または印刷しなければならない。

18.4. インターバル・スタートの競技では、各コースのセパレート・コントロール位置説明リストを、そのコースの競技者にプレ・スタートまたはスタート・レーンで配布しなければならない。その地点より前には公表してはならない。

19. コントロール設置、および装置 (Control set-up and equipment)

19.1. 地図上で示したコントロール・ポイントには、現地に明瞭な表示をしなければならず、競技者が通過したことを証明するための機器を設置する。

19.2. 各コントロールには、30x30 cmの4角形で三角柱形に組み合わされたコントロール・フラッグを設置しなければならない。それぞれの面は対角線で分けられて、半分を白に別の半分をオレンジ(PMS165)にしなければならない。

19.3. フラッグは、コントロール位置説明にしたがって地図で示した特徴物に取り付けなければならない。競技者が記載された場所を視界に捉えたときに、フラッグも見えるように設置しなければならない。

19.4. コントロール（スタートのコントロール・フラッグを含む）は30m以内に近接して設置してはならない。スプリントではもっと短縮してよい。地図の縮尺が1:4000または1:3000の場合は、走行距離で25m、直線距離で15m以上離す。（付録2, 3.5.5 参照）

コントロールの特徴物が類似している（テレイン内でも地図上でも、明確に異なっていない）場合は、コントロール間の最短直線距離は 60m（地図の縮尺が 1:4000 か 1:3000 の場合は 30m）とする。

- 19.5. パンチしている人がいることで、付近にいる競技者がコントロールを見つけるのを著しく有利にすることのないように、コントロールを設置してフラッグを取り付けなければならない。
- 19.6. 各コントロールは、識別番号（code number）によって識別されなければならない。記印器具（marking device）を使用している競技者が明瞭に番号を読むことができるように、コントロールに取り付けなければならない。31 より小さい番号を使用してはならない。文字は、白地に黒で、高さは 3～10 cm、線の太さは 5～10mm で書かなければならない。識別番号を水平に設置すると上下逆に誤読しかねないとき（例えば 161）は、番号に下線を引かなければならない。
- 19.7. 競技者が通過したことを証明するために、各フラッグのすぐ側に記印器具を、十分な数だけ設置しなければならない。
- 19.8. 想定ウィニング・タイムが 30 分を越える場合は、勝者の想定スピードで少なくとも 25 分ごとに、給水（refreshment）を設けなければならない。
- 19.9. 少なくとも給水として、適温の純水が提供しなければならない。もし別の給水が提供されるならば、それが明瞭にわかるようにしなければならない。

WOC, WCup, JWOC

- 19.10. 想定ウィニング・タイムが 60 分を越える場合は、純水の他に WADA 準拠のスポーツドリンクを提供しなければならない。
- 19.11. 安全性に懸念のあるすべてのコントロールをガードする。

WOC

- 19.12. すべてのコントロールをガードしていなければならない。
- 19.13. レース中に主催者がコントロールやコースの問題（パンチユニットの故障、コントロールユニットの不適切な配置、通路の閉塞など）に気付いたときは、主催者はできるだけ早く問題を修正するために、あらゆる努力を払うべきである。レース終了後、主催者は結果の公平性に対する問題の影響を考慮して、必要な措置を講じなければならない。この措置としては、結果を不成立にすることもありうる。

20. パンチング・システム（Punching systems）

- 20.1. IOF が認可した電子式パンチング・システムのみ使用することができる。－ 付録 4 参照
- 20.2. 電子式パンチング・システムを使う場合は、競技者がモデル・イベントで練習する機会を用意しなければならない。
- 20.3. 競技者は、各コントロールにおいて、提供されているパンチ器具を使って、自分自身のカードにパンチすることに責任を持つ。1 つの機器が故障している、あるいは故障しているように見える場合は、競技者は用意されているバックアップを使用しなければならない。パンチの記録がなければ順位がつかない。
- 20.4. コントロール・カードは、すべてのコントロールを通過したことを明瞭に示すものでなければならない。
- 20.5. コントロール・パンチが欠落しているか不明瞭なものがある競技者は、パンチのミスが競技者の過失ではないことが立証できなければ、順位外としなければならない。その場合は例外的に、コントロール役員またはカメラによる確認やコントロール機器を読み取ってすることで通過証明とすることができる。それ以外の場合には、そのような証拠は認められず、競技者を順位外としなければならない。従来の（接触型）SportIdent、SFR、Learnjoy の場合、この規則は以下を意味する。
 - ・ 競技者のパンチが速すぎてフィードバック・シグナルを受け取れなかった場合は、カードにはパンチの記録がないので、たとえコントロール機器に競技者のカード・ナンバーが記録されているかもしれないが、競技者は順位外としなければならない。
 - ・ 主催者は、任意のコントロールからバックアップを読み取ることが許される。競技者は 20 EUR（または現地通貨での相当額）を支払うことで、主催者にコントロールからバックアップを読み取るよう要求することができる。コントロールに完全な（エラーではない）パンチ記録があることが判明した場合、競技者は正しくコントロールをパンチしたとして記録されなければならない。料金は返金される。そうでなければ、料金は主催者が没収する。
- 20.6. コントロール・カードを紛失するか、コントロールを飛ばすか間違った順番に通過した競技者は、順位外としなければならない。

- 20.7 非接触型コントロール・カードを2枚を使用する場合は、両方を同じ腕で携行しなければならない。1枚目のカードに読み取れないパンチがあったときは、2枚のカードのパンチをマージしてパンチング記録としなければならない。
- 20.8 コントロール・カードまたはパンチ器具のいずれかに障害が発生した場合でも、競技者が通過記録できるように、バックアップパンチングの手段を提供しなければならない。

21. 器具 (Equipment)

- 21.1. 主催者連盟の規定で別の細則がない限りは、衣類および履物の選択は自由とする。
- 21.2. スタートナンバーカード (bib) は、明瞭に見えるように、主催者の指示にしたがって装着しなければならない。ナンバーカードは、25×25 cm以下で、文字は少なくとも高さ10 cmでなければならない。ナンバーカードを折り曲げたり切ったりしてはならない。
- 21.3. 競技中に、競技者がナビゲーションのために使用することが許されるのは、主催者から提供された地図とコントロール位置説明、およびコンパスだけである。

WMOC, ROC, WRE

- 21.4. 主催者が許可した場合を除き、競技者は隔離ゾーン（隔離ゾーンのないときはスタート地区）に入ってからレースをフィニッシュするまではリモートと情報を送受信できる通信機器を使用または携行してはならない。

GPS機能を有するデバイス（時計など）は、以下の条件を満たすものであれば携行できる：

- 地図表示機能がない。
- GPSデータを受信する以外の通信機能がない。
- ナビゲーション目的では使用しない。

しかしながら、主催者はそのような器具の使用を特に禁止する権限を持つ。主催者は、競技者にトラッキング・デバイスおよび／またはGPSデータ記録装置の着用を求めることができる。

WOC, JWOC, WCup

- 21.5. 主催者が許可した場合を除き、競技者は隔離ゾーン（隔離ゾーンのないときはスタート地区）に入ってからレースをフィニッシュするまではリモートと情報を送受信できる通信機器を使用または携行してはならない。

GPS機能を有するデバイス（時計など）は、主催者から供給されたものでなければ携行してはならない。主催者は、競技者にトラッキング・デバイスおよび／またはGPSデータ記録装置を装着させてもよい。

WOC, WCup, JWOC

- 21.6. 競技者は、自分自身の連盟のウェアを身に着けなければならない。

22. スタート (Start)

- 22.1. 個人競技では、スタートは通常インターバル・スタートである。リレー競技では、スタートは通常マス・スタートである。
- 22.2. 予選・決勝レース競技では、決勝の最初のスタートは、予選における最後のスタートの最低2.5時間後としなければならない。

WOC, JWOC

- 22.3. すべての競技者は、スタート地区で干渉されずに準備しウォーミングアップをするために、最低でも30分の時間を持ってなければならない。スタート前の競技者とチーム・オフィシャルだけが、ウォーミングアップ・エリアに入ることを許可されなければならない。
- 22.4. 計時を開始するスタートより手前にプレスタートを設けても良い。プレ・スタートを置く場合は、呼び出し時刻をチーム・オフィシャルおよび競技者へ示すための時計をそこに設置し、競技者の名前を呼ぶか表示しなければならない。プレ・スタートの先へは、スタートする競技者と主催者に案内されたメディア取材者しか入ることはできない。
- 22.5. スタートには、競技者に競技時刻に示す時計を置かねばならない。もしプレ・スタートがなければ、競技者の名前を呼ぶか表示しなければならない。
- 22.6. スタートは、後の競技者や他の人が、地図、コース、ルート選択あるいは最初のコントロールへの方向を見ることができないように

設営しなければならない。もし必要なら、計時を開始するスタートからオリエンテーリングを開始する地点までマーク・ルートにしなければならない。

22.7. 競技者はスタート時刻と同時またはそれ以降に地図を取る。競技者は正しい地図を取ることに責任をもつ。スタートする前に競技者が見ることができるように、競技者のスタート番号、名前またはコースを地図またはその近くに示さなければならない。

22.8. オリエンテーリングを開始する地点は、地図上ではスタートの三角形で記さなければならない、テレインには記印器具のないコントロール・フラッグを設置する。

22.9. スタート時刻に遅れた競技者も、スタートすることを許されなければならない。新しいスタート時刻が記録されなければならない。

- ・ マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合は、できるだけ早くスタートさせなければならない。
- ・ インターバル・スタートで、遅刻者がスタートラインに到着した時に、スタート間隔の前半であった場合は、即座にスタートさせなければならない。
- ・ インターバル・スタートで、遅刻者がスタートラインに到着した時に、スタート間隔の後半であった場合は、次の空いているスタート間隔の半分の間でスタートさせなければならない。

22.10. 自分自身の過失によりスタート時刻に遅れた競技者は、正規のスタート時刻にスタートしたものととして計時しなければならない。主催者の過失によりスタート時刻に遅れた競技者は、新しいスタート時刻から計時しなければならない。

22.11. チェンジ・オーバーは、各リレー・チームのメンバー同士がタッチすることで行う。チェンジ・オーバーは、フィニッシュしてくるチーム・メンバーが次走者の地図を取り、それを受け渡すことによって行うことでタッチによるチェンジ・オーバーにかえてもよい。

22.12. リレーで正しくかつ適時にチェンジ・オーバーをすることは、主催者がフィニッシュして来るチームをあらかじめ通知することになっているとしても、競技者の責任である。

22.13. IOF イベントアドバイザーの同意があれば、主催者はチェンジ・オーバーできなかったリレー・チームの以降のレッグの競技者をマス・スタートさせてもよい。

WOC, WCup

22.14. リレー・チームは、いったん失格を承諾したら、そのチームのそれ以降のメンバーをスタートさせてはならない。

WOC, JWOC

22.15. チェンジ・オーバー地区では、チーム次走者は、チームの前走者が戻ってくるいづらか前にはそれを知らされなければならない。

WOC, WCup, JWOC

22.16. 主催者は、スタート前の選手がコースについての情報を得ることを防ぐために隔離ゾーンを設けてもよい。隔離ゾーンは、競技会主催者によって許可された関係者を除き、その内にいる者は外との通信が禁じられたセキュアなエリアとして定義される。主催者は選手およびチーム・オフィシャルが隔離ゾーンの中になければならない時間を定める。主催者は、隔離ゾーンで待つ選手のための適切な便宜（トイレ・給水・雨除け等）を提供しなければならない。締切時間以降に隔離ゾーンに入ろうとした者に対しては、入場を拒否してもよい。競技者およびチーム・オフィシャルは、21.4 項で規定されている以外の通信機器を隔離ゾーンに持ち込んではいない。

23. フィニッシュおよび計時 (Finish and time-keeping)

23.1. 競技者がフィニッシュ・ラインを越えたときに競技は終了する。

23.2. フィニッシュへの誘導をテープ、ロープあるいは柵によって示さなければならない。最後の 20m は直線としなければならない。

23.3. フィニッシュ・ラインの幅は、インターバル・スタートの場合は少なくとも 1.5m 以上、マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合は少なくとも幅 3m 以上にしなければならない。ラインは、入ってくる方向に対して直角にしなければならない。フィニッシュ・ラインの正確な位置が、フィニッシュしようとする競技者にとって明瞭にわかるようにしなければならない。

23.4. 競技者はフィニッシュ・ライン越えた、またはチェンジ・オーバーを終了したときに、コントロール・カードまたは通過記録を提出しなければならない。主催者からの要求があれば、競技地図も提出しなければならない。

23.5. フィニッシュ・タイムは、以下のいずれかの時間で計時しなければならない。

- ・ 競技者の胸がフィニッシュ・ラインを横切ったとき
- ・ 競技者がフィニッシュ・ラインでパンチしたとき
- ・ 計時用の光ビームを使う場合は、地上 0.5～1.25m 上にビームを設置しなければならず、これを競技者が横切ったとき
- ・ 競技者が携行しているトランスポンダーがフィニッシュ・ラインを横切ったとき

タイムは秒以下を切り捨てとしなければならない。タイムは時間／分／秒または分／秒で表さなければならない。

23.6. 計時システムは、同じクラスの競技者の相対的タイムを 0.5 秒以上の正確さで計時しなければならない。(1/10 秒単位の計時の場合 0.05 秒)

WOC, WCup, JWOC

23.7. インターバル・スタート競技では、競技者がフィニッシュラインを走り抜けてフィニッシュできるよう、電子式フィニッシュ計時システムを使用しなければならない。

23.8. 正副 2 つの独立した計時システムを、競技の開始から終了まで使用しなければならない。

23.9. マス・スタートまたはチェイシング・スタートの競技では、フィニッシュ審判が、選手の胸がフィニッシュラインを通過した順番に基づいて最終順位を判定しなければならない。裁定委員のメンバーのうち 1 人はフィニッシュ・ラインにいないなければならない。

23.10. IOF イベントアドバイザーの同意があれば、主催者はそれぞれのクラスに競技時間の上限を定めてもよい。

23.11. フィニッシュには、医療用設備と担当者を配置し、森林へも出動できるように準備しておかなければならない。

WOC

23.12. 競技時間の上限は以下の通りとする。

- ・ スプリントは、女子・男子とも 50 分
- ・ ミドル・ディスタンスは、女子・男子とも 120 分
- ・ ロング・ディスタンスは、女子が 3 時間で男子が 4 時間
- ・ リレーは、女子・男子とも 4.5 時間
- ・ スプリント・リレーは 120 分
- ・ ノックアウト・スプリントの予選は 30 分
- ・ ノックアウト・スプリントのマス・スタート・レースは 15 分

24. 結果 (Results)

24.1. コースを正しく完了した競技者は、成績順に並べられる。コースを正しく完了できなかった人は、成績の最後に順位なしで理由(例: ミスパンチ、リタイア、失格)とともに掲示される。

24.2. 競技の間は、暫定的な結果を、フィニッシュ地区または参加者が集まる場所において公表、掲示しなければならない。

24.3. 公式の結果は、最後にスタートした者の競技可能時刻が経過した後、4 時間以内に公表しなければならない。それらは、各チーム監督および公認のメディア取材者に競技の日のうちに配布しなければならない。

24.4. 予選・決勝レース競技の決勝が予選と同じ日に開催される場合は、予選の結果は最後にスタートした者の競技可能時刻が経過した後、30 分以内に公表しなければならない。

24.5. 公式の結果には、参加した競技者すべての分を記載しなければならない。リレーでは、オーダー順に競技者の名前とそのレッグでのタイム、および各自の走ったコース・パターンを記載しなければならない。

24.6. インターバル・スタートで、2 人以上の競技者が同タイムとなった場合は、結果リストでは同順位としなければならない。同順位に続く順位は、空位としなければならない。

24.7. マス・スタートまたはチェイシング・スタートでは、競技者がフィニッシュした順に順位が決まる。リレーではチームの最終走者がフィニッシュした順になる。

24.8. リレーで後ろのレッグがマス・スタートになった場合、マス・スタートに加わったチームの順位はチームの各競技者の時間の合計で決めることとする。後ろのレッグがマス・スタートになったチームの順位は、チェンジ・オーバーできて正規の方法でフィニッシュしたチームより

後になる。

24.9. 制限時間を超過した競技者およびチームには順位がつかない。

WOC, WCup, JWOC

24.10. すべての競技者、チーム・オフィシャル、公認のメディア取材者に、公式の結果リストおよび競技地図を配布しなければならない。

WCup

24.11. ワールドカップの個人競技では、競技者が最もよい結果を出したレース競技での成績が、総合スコアにおいて意味を持つ。スコアの計算方法の詳細は、最初の競技会の最低 4 カ月前までに IOF 理事会が決める。

JWOC

24.12. リレーにおいて、メンバーが揃わないか、競技者が複数の連盟からなるチームは、順位を決めるときには除外し、公式結果にも記載してはならない。

WCup, JWOC

24.13. リレーで 2 チームを代表として参加させている連盟は、よい結果を出したチームの成績のみが、順位を決める上で考慮される。

JWOC

24.14. 両方のクラスで、(団体競技で連盟の順位をつけるために) チーム・スコアを連盟ごとに計算する。計算方法は、連盟ごとに個人競技で上位 3 名の競技者の順位を足し、それにリレーの公式順位の 3 倍を足し合わせる。個人競技で完走した者が 3 名に満たない連盟は、どの失格者も最下位の一つ下の順位として扱う。リレー競技で順位がつかなかった連盟は、最下位の一つ下の順位として扱う。それから連盟ごとに男・女のチーム・スコアを足し合わせることで、総合のチーム・スコアを計算する。最もスコアの少ない者が勝者となる。

24.15. 結果は競技会の当日中にインターネットで公表し、IOF に電子的手段にて報告しなければならない。

24.16. 結果は、競技者の全コースのタイムを基に決めなければならない。(交通量の多い道路を含む短い区間など) 事前に告知されていない場合は、スプリットタイムに基づいて一部の区間を除いて計時することは許されない。

WOC, WCup

24.17. ハックアウト・スプリントの最終成績は以下のように公表される。

3 回のエリミネーション・ラウンドがあって各枠に 6 名の競技者が参加する競技の場合 (36 名の競技者)、成績リストは以下のようになる。

- | | |
|-------------|---|
| 1 位 - 6 位 | 決勝でのフィニッシュ順に基づく。必要があれば、その前のエリミネーション・ラウンドでの各順位に基づいて順位を決める。 |
| 7 位 - 9 位 | 準決勝の各枠で 3 位の者であり、その前のエリミネーション・ラウンドでの各順位に基づく。同順位もありうる。 |
| 10 位 - 12 位 | 準決勝の各枠で 4 位の者であり、その前のエリミネーション・ラウンドでの各順位に基づく。同順位もありうる。 |
| 13 位 - 15 位 | 準決勝の各枠で 5 位の者であり、その前のエリミネーション・ラウンドでの各順位に基づく。同順位もありうる。 |
| 16 位 - 18 位 | 準決勝の各枠で 6 位の者であり、その前のエリミネーション・ラウンドでの各順位に基づく。同順位もありうる。 |
| 19 位 | 準々決勝の各枠で 4 位の者。 |
| 25 位 | 準々決勝の各枠で 5 位の者。 |
| 31 位 | 準々決勝の各枠で 6 位の者。 |
| 37 位 | 最初の予選の各枠で 13 位の者。 |
| 40 位 | 最初の予選の各枠で 14 位の者。 |
| 43 位 | 最初の予選の各枠で 15 位の者。 |
| 46 位 | 最初の予選の各枠で 16 位の者。 |
| など | など |

競技者が同順位で並んだ場合は、ともに順位が付かなかった場合を除き、同じ高い方の順位が与えられなければならない。順位が付かなかったときは、同じ低い方の順位が与えられなければならない。

予選枠で 13 位以降に引き分けがあった場合、それに続く順位は上記より繰り下げになる。

枠または決勝の資格はあるが、そのレースで順位が付かなかった競技者は、この規則の目的上、そのレースで最後にフィニッシュしたと見なされる。

25. 表彰 (Prizes)

25.1. 主催者は権威ある表彰式を開催しなければならない。

25.2. 男女とも同等に表彰しなければならない。

25.3. 2人以上が同順位になった場合も、それぞれが適切なメダルおよび／または賞状 (diploma) を授与されなければならない。

WOC

25.4. 世界チャンピオンのタイトルが、以下の 11 種目*で与えられる： (* IOF 原文では 9 種目となっているが間違いと史料)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |
| ・ 女子、ノックアウト・スプリント | ・ 男子、ノックアウト・スプリント |
| ・ スプリント・リレー | |

JWOC

25.5. ジュニア世界チャンピオンのタイトルが、以下の 8 種目で与えられる：

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |

ROC

25.6. 地域チャンピオンのタイトルが、以下の 9 種目で与えられる：

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |
| ・ 女子、ノックアウト・スプリント | ・ 男子、ノックアウト・スプリント |
| ・ スプリント・リレー | |

WOC, JWOC

25.7. すべての競技で以下の表彰が行われる。

- ・ 1 位 金メダル (楯) と賞状
- ・ 2 位 銀メダル (楯) と賞状
- ・ 3 位 銅メダルと賞状
- ・ 4 位-6 位 賞状

メダルおよび賞状は、IOF より供給される。

WOC

25.8. 表彰式は、主催連盟と IOF の代表者によって執り行わなければならない。

WOC, JWOC

25.9. リレーにおいては、チームの個々のメンバーが、適切なメダルおよび／または賞状を受け取らなければならない。

WOC, JWOC

25.10. 表彰式の間、上位 3 位までの競技者の国旗を掲揚し、優勝者の国歌を演奏しなければならない。

WCup

25.11. 個人競技の各クラス 3 位まで、リレー競技の各クラス 3 位までが主催者により表彰される。個人競技で 6 位まで、リレー競技で 6 位までに IOF より賞状を授与される。

WCup

25.12. 最終競技会の後で、個人ワールドカップ総合成績の両方のクラスの 1 位の競技者には、IOF よりトロフィーを授与される。3 位までの競技者には IOF よりメダルを授与される。6 位までの競技者には IOF より賞状を授与される。

JWOC

25.13. (規則 24.13 にしたがって) 団体競技の総合スコアで優勝した連盟は IOF より表彰される。

WMOC

25.14. それぞれのクラスの決勝で上位 3 名の競技者は IOF よりメダルを授与される。

26. 公正な競技 (Fair play)

26.1. オリエンテーリング競技会に加わるすべての人は、公平で誠実に、友情の精神をもって行動しなければならない。競技者は、他の競技者、オフィシャル、ジャーナリスト、観客および競技エリアの住民に、敬意を払わなければならない。競技者はトレインではできる限り静粛にしなければならない。

26.2. 事故の場合を除いて、競技中に他の競技者から助力を得たり、他の競技者を助けたりすることを禁止する。負傷した競技者を助けることは、すべての競技者の義務である。

26.3. ドーピングは禁止する。IOF 反ドーピング規則がすべての IOF 競技会に適用され、IOF 理事会はドーピング取り締まり措置を実施することを要求してもよい。必要な TUE (治療使用免除) 証明を取得しておくのは競技者の責任である。

26.4. 開催地が公開されるまでは、すべての役員は、競技エリアおよびトレインについて厳密に秘密を維持しなければならない。コースについては厳密に秘密を維持しなければならない。

26.5. 主催者の明確な許可がない限り、競技トレインの調査や練習することを試みてはならない。競技の前または競技中に、主催者が提供する以上にコースに関する情報を手に入れることを試みてはならない。

26.6. 主催者は、当該トレインまたは地図を熟知して、他の競技者より実質的に有利な立場にある競技者を、競技会に参加させてはならない。これにあたる競技者の参加は、イベントアドバイザーと協議して決定しなければならない。

26.7. チーム・オフィシャル、競技者、メディア取材者および観客は、許可されたエリア内にとどまらなければならない。

26.8. コントロール役員は、競技者を邪魔したり引きとめたり、あるいはいかなる情報も与えることをしないようにしなければならない。静寂にし、目立たない衣類を身につけて、コントロールに近づく競技者を手助けしないようにしなければならない。このことは、トレイン内にいる他のすべての人、例えばメディア取材者にも当てはまる。

26.9. フィニッシュ・ラインを越えたら、競技者は主催者の許可なく競技トレインに再び立ち入ってはならない。棄権する競技者は、ただちにフィニッシュでこれを申告しなければならず、地図とコントロール・カードを提出する。棄権した競技者は、競技に影響を与えたり、他の競技者を助けるようなことをしてはならない。

26.10. いかなる規則でも違反したり、違反することで利益を得た競技者は、罰則を受ける。

適用される罰則は以下の通り：

- マス・スタート形式のレースでジャンピング・スタートした場合のタイム・ペナルティ
- 失格
- 一定期間の大会出場停止 (懲戒委員会で決定された場合のみ)

競技会的主催者、または (提訴があった場合には) 裁定委員は、プリテンでプログラムとして定義されている競技会中において、罰則を課す責任をもつ。競技会の外では、懲戒委員会が罰則を課す責任をもつ。

26.11. 競技者以外で、規則違反をした者は、懲戒処分を受けることがある。

- 26.12. 競技に競技者、オフィシャルまたは観客にとって危険になる事態が明らかになった場合、主催者はいかなる時点であっても競技を中断、延期またはキャンセルしなければならない。
- 26.13. 競技に著しく不公平になる事態が発生した場合、主催者は競技を無効（不成立）にしなければならない。
- 26.14. 競技会に出場する競技者、チーム役員、競技会役員が、オリエンテーリング競技会に関わる賭博に参加することを禁止する。競技会に関する賭博を支援したり宣伝することも禁止する。さらに、賭博に関わる買収行為に参加してはならない。このような行為には、結果について八百長をすること、結果のあらゆる面について操作すること、利益を得るために全力を尽くさないこと、賄賂を授受すること、内部情報を漏らすこと、が含まれる。

27. 申し立て (Complaints)

- 27.1. これらの規則への違反行為や主催者からの指示に対して、申し立て(complaint)をすることができる。
- 27.2. 申し立ては、チーム・オフィシャルまたは競技者のみがすることができる。
- 27.3. いかなる申し立ても、書面にてできるだけ速やかに主催者に提出しなければならない。苦情は主催者が判断する。結果は、すみやかに申し立てをした者に通知しなければならない。主催者が判断を下すことができない場合、イベントアドバイザーが代わりに判断しなければならない。
- 27.4. 申し立ては無料とする。
- 27.5. 主催者は申し立ての時刻制限を設けてもよい。制限時刻の後でなされた申し立ては、正当で例外的な状況があるときのみ考慮される。状況は申し立ての中で説明されていなければならない。
- 27.6. ノックアウト・スプリントでは、いかなる申し立ても、該当する枠の結果が公表されてから 3 分以内に主催者宛に行わなければならない。申し立てはひとまず口頭で行ってもよいが、その後で文書で出されなければならない。

28. 提訴 (Protests)

- 28.1. 申し立てに対する主催者の判定について、提訴(protest)をすることができる。
- 28.2. 提訴は、チーム・オフィシャルまたは競技者のみがすることができる。
- 28.3. いかなる提訴も、申し立てに対する主催者の判定が申し立てを行った者に通知されてから 15 分後までに、主催者に書面で行わなければならない。締切時間を過ぎてなされた提訴は、正当で例外的な状況であれば裁定委員の裁量によって認めてもよい。状況は提訴状の中で説明されていなければならない。

WOC, WCup, JWOC, WMOC, ROC

- 28.4. 提訴は 50 ユーロ（またはそれに相当する現地通貨）とし、提訴するときにはシニア・イベント・アドバイザーに現金で支払わなければならない。裁定委員によって提訴が受け入れられた場合は手数料が返還されるが、そうでなければ IOF が没収としなければならない。

WRE

- 28.5. 提訴は無料とする。
- 28.6. ノックアウト・スプリントでは、いかなる提訴も、主催者が申し立てへの判定を発表してから 3 分以内に主催者宛に行わなければならない。提訴はひとまず口頭で行ってもよいが、その後で文書で出されなければならない。

29. 裁定委員 (Jury)

- 29.1. 提訴を裁定するために、裁定委員が任命されなければならない。
- 29.2. IOF 理事会が、どの競技会に IOF から裁定委員を任命するかを決める。もし IOF が裁定委員を任命しなければ、主催者連盟が裁定委員を任命しなければならない。

- 29.3. 裁定委員は、規則 29.10-29.14 にしたがって、別々の連盟の 3～5 名の投票権をもつメンバーから構成される。IOF イベントアドバイザーは裁定委員会を司会するが、いかなる投票権も持たない。
- 29.4. 主催者の代表者は、裁定委員会に参加してもよいが、裁定委員会が決定を下す前に退席を求められることもありうる。主催者の代表者は投票権を持たない。
- 29.5. 主催者は裁定委員の決定にしたがって行動しなければならない。例えば、主催者が失格とした競技者を復活させる、主催者によって承認された競技者を失格にする、主催者によって承認されたクラスの結果を不成立にする、あるいは主催者が不成立と宣言した結果を成立させる、など。
- 29.6. すべてのメンバーが揃ったときにのみ裁定委員は決議をすることができる。緊急を要する場合は、裁定委員の過半数が決定に同意すれば、仮の裁定を行ってもよい。
- 29.7. 裁定委員メンバーが自ら公平な裁定が困難になったことを宣言するか、任務を遂行することができなくなった場合は、IOF イベントアドバイザーは、代行者を指名しなければならない。利益が相反する可能性があるかどうかは、IOF イベントアドバイザーが最終決定を下さなければならない。
- 29.8. 提訴に対処する際に裁定委員は、主催者を指示することに加えて、規則の違反行為が甚だしい者がいた場合、ある競技会の出場停止または未来永劫に IOF 競技会から追放することを IOF に勧告してもよい。
- 29.9. 裁定委員の決定が最終的なものになる。

WOC

- 29.10. 裁定委員は IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 5 名のメンバーで構成されることとする。

JWOC, WMOC

- 29.11. 裁定委員は IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 3 名のメンバーで構成されることとする。

WOC, JWOC

- 29.12. 裁定委員は男・女両方から構成されなければならない。主催者連盟から選出しないようにする。

TWG, WCup, WRE

- 29.13. 裁定委員は異なる連盟の 3 名のメンバーで構成されることとする。2 名は IOF 理事会によって任命される。1 名は主催者連盟によって任命される。

WRE

- 29.14. 裁定委員が 3 名のメンバーで構成されることとし、可能であれば異なる連盟より選出する。

30. アピール (Appeals)

(訳注：Appeal はなされた決定に対する上告・控訴の意味であるが、ここではアピールと訳す)

- 30.1. 裁定委員会がまだ組織されていないか、競技会が終わって裁定委員が解散していた場合には、これらの規則の違反に対してアピールしてもよい。裁定委員の運営に重大な手続き上の瑕疵があった場合にのみ、裁定委員の決定に対してアピールすることができる。
- 30.2. アピールは、連盟のみが行うことができる。
- 30.3. アピールは、できるだけ速やかに、IOF 懲戒委員会に書面で行わなければならない。
- 30.4. アピールは無料とする。
- 30.5. アピールについての決定は、最終決定である。
- 30.6. IOF 懲戒委員会がアピールを取り扱う。

31. イベント・コントロール (Event control)

- 31.1. これらの規則に基づいて行われるすべての競技会は、IOF イベントアドバイザーの指揮下で行わなければならない。IOF イベント

アドバイザーは、主催者の決定後 3 カ月以内に任命しなければならない。

31.2. どの競技会に IOF から IOF イベントアドバイザーを任命するか、IOF 理事会が決定する。

31.3. IOF イベントアドバイザーが IOF によって任命された場合は、彼（彼女）が主催者に対して IOF の公式の代表者となり、IOF 理事会の下に置かれ、IOF 事務局との連絡窓口となる。

31.4. 主催者連盟は必ず独立したナショナル・コントローラーを任命しなければならない。このコントローラーは、IOF によって任命された IOF イベントアドバイザーを補佐する。IOF が当該競技会のために IOF イベントアドバイザーを任命しない場合は、連盟によって任命されたコントローラーが、IOF イベントアドバイザーとなる。連盟によって任命されるコントローラーは、主催者連盟の出身である必要はない。

31.5. すべての IOF イベントアドバイザーは、IOF イベントアドバイザーのライセンスを所有していなければならない。IOF イベントアドバイザーおよび IOF イベントアドバイザーのアシスタントは、参加しているチームに対していかなる責任も持たなくてよい。

31.6. IOF イベントアドバイザーは、規則が遵守され、間違いが排除され、最善の公平さが保たれていることを、保証しなければならない。IOF イベントアドバイザーは、もしそれが競技会の要求を満たすために必要があると考えれば、調整を強いる権限を持つ。

31.7. IOF イベントアドバイザーは主催者と密接に協力して動き、またすべての適切な情報を知らされていないなければならない。プリテンなどのすべての公式の情報は、IOF イベントアドバイザーによる承認を受けた上で、各連盟に送付されなくてはならない。

31.8. 少なくとも下記の項目については、IOF イベントアドバイザーの指揮下で実行されなければならない：

- ・競技会の開催地およびテレインの承認
- ・競技会組織の調査と、提案された宿泊設備、食物、輸送、プログラム、予算およびトレーニング機会の妥当性の評価
- ・式典の計画の評価
- ・役員の配置や、スタート、フィニッシュおよびチェンジ・オーバー地区のレイアウトの承認
- ・計時および結果を計算するシステムの信頼性および正確性の評価
- ・地図が IOF 標準に適合しているかの確認
- ・難易度、コントロールの位置と器具、偶然性の要因および地図の正確さを含め、コースの品質を評価した上で、コースの承認
- ・メディアのための段取りおよび設備の評価
- ・ドーピング・テストの段取りおよび設備の評価
- ・公式成績の承認

31.9. IOF イベントアドバイザーは、自身が必要と考える回数だけ指揮に訪れなければならない。訪問の計画は、任命した機関および主催者の合意の上で作成しなければならない。訪問した後ただちに、IOF イベントアドバイザーは、簡潔な報告を書面で IOF イベントアドバイザーの任命機関に提出し、そのコピーを主催者へ送付しなければならない。

31.10. 特に地図の作成、コース設定、資金調達、後援およびメディアの分野で、IOF イベントアドバイザーを補佐するために、1 名か 2 名以上のアシスタントを、IOF イベントアドバイザーを任命した機関が任命してもよい。

31.11. IOF イベントアドバイザーの任命機関は、IOF イベントアドバイザーの任命を取り消す権限を持つ。

WOC

31.12. IOF イベントアドバイザーは少なくとも 3 回視察に訪れなければならない： 1 回は初期の段階、1 回は選手権の 1 年前、あと 1 回は選手権の 3～4 月前である。

32. イベント・レポート (Event reports)

32.1. 競技会の 4 週間後までに、IOF イベントアドバイザーは、IOF イベントアドバイザーの任命機関に報告書を提出しなければならない。報告書には、競技会の特記すべき事項と申し立てまたは提訴の詳細を記載するべきである。

WOC, WCup, JWOC, ROC

32.2. 競技会の 3 週間後までに、主催者は、コース詳細が記載された地図を 2 組と短文式レポートを、IOF 事務局へ提出しなけれ

ばならない。

WMOC

32.3. 競技会の3週間後までに、主催者は、短文式レポート、すべてのA-決勝のコース図を含む地図のセレクションと全成績リストを、IOF事務局へ提出しなければならない。

WOC

32.4. 競技会の6カ月後までに、包括的な報告書と最終的な決算報告書を（保存のために）IOF事務局に送付しなければならない。

33. 広告および後援 (Advertising and sponsorship)

33.1. タバコおよびアルコール度の強い酒 (hard liquor) の広告は禁止する。

33.2. 公式の式典中にチーム・メンバーが着るトラックスーツやその他の衣類につける広告は、300cm²を越えてはならない。スタート番号ゼッケン以外の、競技用の衣類または機器につける広告の数には、制限を設けない。

34. メディア・サービス (Media service)

34.1. 主催者は、メディア取材者が競技会を観察し報道するために、魅力的な作業環境および好意的な機会を提供しなければならない。

34.2. 最低でも主催者は、メディア取材者が下記のものを利用できるようにしなければならない：

- ・中級レベルのホテル宿泊設備。料金は利用者が負担する。
- ・スタート・リスト、プログラム小冊子、および競技の前日までの他の情報。
- ・モデル・イベントに参加する機会。
- ・フィニッシュ地区において、悪天防止対策のされた静かな作業スペース。
- ・結果リストとコースの記載された地図。競技終了後ただちに。
- ・インターネットへのアクセス。料金は利用者が負担する。

34.3. 主催者は、競技の公平さを損ねない限りにおいて、メディアの報道を最大化にするためのあらゆる努力をしなければならない。

付録 1: 一般的な競技クラス (General competition class)

1. 年齢クラス (Age classes)

- 1.1. 競技者は、性別・年齢によってクラスが分かれる。女子は、男子クラスに参加してもよい。
- 1.2. 20 歳以下の競技者は、その年の終わりまでに達する年齢のクラスに属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる上のクラスに参加する権利がある。
- 1.3. 21 歳以上の競技者は、その年齢に達する年の始めから、それぞれのクラスへ属する。彼らは、21 歳以上の年齢が含まれる下のクラスに参加する権利がある。
- 1.4. 中心となる競技クラスは、それぞれ女子・男子別に W21 および M21 と呼ばれる。
- 1.5. 21 歳以下の競技者のために、M20とW20、M18とW18というように、2 歳間隔にクラスを設ける。もっと年配の競技者のために、M35とW35、M40とW40というように、5 歳間隔にクラスを設ける。
- 1.6. それぞれクラスは、コースの難易度および/または距離によって分割しても良い。難易度と、長さによって分割する場合は、E (エリート) -適用可能なら-、A,B,C および N (初心者) というサブ・クラスに分割してもよい。コース距離のみによってサブ・クラスに分割される場合は、S (ショート)、L (ロング) という。
- 1.7. エリート(E)クラスは、18、20、21 の年齢のクラスのみ提供される。E クラスへの出場は、各連盟よりエリートの競技者として分類されるか、連盟のランキング・システムでの位置により選出された競技者に制限されなければならない。

2. 平行クラス (Parallel classes)

- 2.1. 参加者が多すぎるクラスは、平行するクラスに分割することができる。エリート・クラスの分割は、競技者の直近の成績にもとづいて行うべきである。エリート・クラス以外については、同じクラブ、地域、連盟からの競技者が平行するクラスの間で等しく配分されるようにするべきである。

付録 2: コース・プランニングの原則 (Principles for course planning)

1. 序文 (Introduction)
 - 1.1 目的 (Purpose)
 - 1.2 これらの原則の適用 (Application of these principles)
2. 基本原則 (Basic principles)
 - 2.1 オリエンテーリングの定義 (Definition of orienteering)
 - 2.2 良いコース・プランニングの狙い (Aim of good course planning)
 - 2.3 コース・プランナーの大原則 (Course planner's golden rules)
3. オリエンテーリング・コース (The orienteering course)
 - 3.1 テレイン (Terrain)
 - 3.2 オリエンテーリング・コースの定義 (Definition of orienteering course)
 - 3.3 スタート (The start)
 - 3.4 コース・レッグ (The course legs)
 - 3.5 コントロール (The controls)
 - 3.6 フィニッシュ (The finish)
 - 3.7 地図読みの要素 (The elements of map reading)
 - 3.8 ルートチョイス (Route choices)
 - 3.9 難易度 (The degree of difficulty)
 - 3.10 競技の形態 (Competition types)
 - 3.11 コース・プランナーが狙うべきもの (What the course planner should aim)
4. コース・プランナー (The course planner)

1. 序文

1.1 目的

これらの原則は、オリエンテーリングというスポーツの競技において公平を保証し、その独自の特性を維持するために、にフット・オリエンテーリングのコース・プランニングのための一般標準を確立することを、狙いとしている。

1.2 これらの原則の適用

すべての国際フット・オリエンテーリング競技会のコースは、これらの原則にしたがって設計されなくてはならない。これらの原則は、それ以外の競技的なオリエンテーリングイベントの計画でも、普遍的なガイドラインとして利用されるべきである。「オリエンテーリング」という用語は、文中では特に「フット・オリエンテーリング」を意味している。

2. 基本原則

2.1 オリエンテーリングの定義

オリエンテーリングとは、競技者が地上に表示されたいくつかの地点（コントロール）を、地図とコンパスだけを使用して、可能な限り短時間で走破するスポーツである。フット・オリエンテーリングは、走りながらのナビゲーションに特性があるといつてよい。

2.2 良いコース・プランニングの狙い

コース・プランニングの狙いは、要求される能力を試すために適切に設計されたコースを、競技者に提供することである。結果が、競技者の技術的・体力的能力を反映するようであってはならない。

2.3 コース・プランナーの大原則

コース計画者は、以下の原則を念頭においていなければならない：

- ・走りながらナビゲーションするというフット・オリエンテーリングの独自の特性
- ・競技の公平さ
- ・競技者の楽しみ
- ・野生生物および環境の保護
- ・マスコミおよび観客のニーズ

2.3.1 独自の特性

すべてのスポーツは、自身の特性を有する。オリエンテーリングの独自の特性は、未知のトレインで最もよいルートを見つけてそれを辿り、いかに短時間で走るかということである。正確な地図読み、ルート選択の判断、コンパス操作、緊迫した状況での集中、迅速な決断、自然トレインの中での走力などの、オリエンテーリング技能が要求される。

2.3.2 公平さ

公平さが競技スポーツでは基本的に要求される。

コース・プランニングとコース設置の各段階において、最善の注意がなされなければ、オリエンテーリング競技においては、運が簡単に勝敗を左右しかねない。コース・プランナーは、競技が公平であり、すべての競技者がコースのすべての箇所と同じ条件で競うことを保証するために、すべての要因に気を配らなければならない。

2.3.3 競技者の楽しみ

競技者が与えられたコースに満足して初めて、オリエンテーリングの人気を高めることができる。それゆえに、コースが、距離、体力的・技術的な難易度、コントロールの設置場所などの観点から適当であることを保証するように、慎重にコース・プランニングすることが必要である。この点において、それぞれのコースがそのコースを走る競技者にとって適当であることが、特に重要である。

2.3.4 野生生物および自然環境

環境は繊細である：野生生物をかき乱すかもしれないし、地面や植物は使い過ぎで被害を受けるかもしれない。環境には、競技エリアの住民、壁、フェンス、耕作地、ビルディングおよびその他の建設物等も含まれる。

ダメージを与えることなく最も繊細なエリアに干渉しない方法を見つけることは、普通に可能である。経験と調査は、正しい予防措置を行いコースがよく設計されていれば、大きな競技会でさえも永久的なダメージを与えることなく繊細なエリアで開催できることを示している。

コース・プランナーは、選択されたトレインへ立ち入り、トレインにいくつかの繊細なエリアがあることを、事前に確認しておくことがとても重要である。

2.3.5 マスコミおよび観客

オリエンテーリングというスポーツの良い印象を一般社会に与える必要は、コース・プランナーにとって永遠の関心事であるべきである。コース・プランナーは、スポーツとしての公平さに妥協することなしに、観客および報道陣が、競技の進行を可能な限り追って見られるように、努力すべきである。

3. オリエンテーリング・コース

3.1 テレイン

テレインは、すべての競技者に公平な競技を提供できるように、選定されなければならない。

そのスポーツの特性を維持するために、テレインは、走行可能で競技者のオリエンテーリング技能を試すのにふさわしくあるべきである。

3.2 オリエンテーリング・コースの定義

オリエンテーリング・コースは、スタート、コントロール、およびフィニッシュによって定義される。地図上で示してあるとおり正確にテレインに設置されたこれらのポイントとポイントの間がコース・レグであり、競技者はこの間をオリエンテーリングしなければならない。

3.3 スタート

スタート・エリアは、以下のような位置に設営すべきである：

- ・ウォーミング・アップ・エリアがあること
- ・待機中の競技者が、スタートした者のとったルート選択を見ることができないこと

最初にオリエンテーリングを開始する地点は、テレインでは記印器具のついていないコントロール・フラッグが置かれ、地図上では三角形で記される。

競技者がスタート時点からオリエンテーリングの課題に直面するようにすべきである。

3.4. コース・レグ

3.4.1. 良いレグ

コース・レグは、最も重要なオリエンテーリング・コースの要素であり、たいていはそれが品質を決定するだろう。

よいレグは、競技者に面白い地図読みの課題を提供して、個性的なルート選択の可能性を持ちつつ、よいテレインの中に導く。

同じコースの中に、異なる種類のレグが提供されるべきで、ひたすらに地図読みを強いるものもあれば、ルート選択をしたらより容易に走れるというものもある、というのがよい。レグの距離や難易度が変化に富んでいて、競技者に幅広くオリエンテーリング技術および走るスピードを使い分けさせるようにするべきである。コース・プランナーは、連続しているレグにおいて大まかな方向に変化を持たせ、競技者自身に頻繁に方向の確認を繰り返させるように、尽力すべきである。

均等でかつ品質の劣るレグがたくさんあるコースより、むしろ少しの非常に良いレグを、それを強調するために短いリンクで繋ぐようなコースの方が望ましい。

3.4.2 レグの公平

いかなるレグも、競技者が競技中に、地図から読み取れない有利・不利のあるようなルート選択を含むべきでない。

競技者に、立入禁止あるいは危険なエリアを横切らせる気にさせるようなレグは、避けなくてはならない。

3.5 コントロール

3.5.1 コントロール設置位置

地図上に示されたテレイン内の特徴物にコントロールが設置される。競技者は、順番が指定されていればその順番通りに、自分自身でルートを選択して、これらを回ってこなければならない。これには、公正さを高めるために、慎重なコース設計と確認が要求される。

地図上で、コントロール付近の地形が正確に、またありうるすべての方向からのアプローチに対して方向と距離が正しく描写されていることが、特に重要だ。

もし地図上で、他にアプローチの助けになるような特徴物がなければ、コントロールを近距離からしか見えないような小さい特徴物に設置してはならない。

コントロールは、どの方向から来ればコントロール・フラッグが見えやすいかということが、地図またはコントロール位置説明からでは判断できないような場所に設置してはならない。

3.5.2 コントロールの機能

コントロールの主要機能は、オリエンテーリングのレッグの始めと終わりを示すことである。

時には、他の特定の目的でコントロールが、使われる必要がある。例えば、危険な箇所や立入禁止エリアを迂回して競技者を通す場合などである。

コントロールは、給水や報道および観客の観戦ポイントとすることができる。

3.5.3 コントロール・フラッグ

コントロールの器具は、IOF 競技会規則に準拠しなければならない。

可能な限りにおいて、コントロール・フラッグは、競技者が記されたコントロールの特徴物に達した時に初めて見えるように、設置されるべきである。公平性のためには、コントロール位置に競技者がいるかいないかにかかわらず、コントロールの見つけやすさは同じであるべきである。決してコントロール・フラッグは隠されるべきでない： 競技者がコントロールに達したときに、フラッグを捜し回らなければならないようであるべきではない。

3.5.4 コントロール設置位置の公平

コントロールの設置位置は、細心の注意を払い、チェックして出て行く競技者が、アタックしてくる競技者をコントロールに導くような「鋭角」を特に避けるように、選択する必要がある。

3.5.5 コントロールの近接

異なるコースのコントロールは、あまりに近接に置かれすぎると、コントロール位置へ向かって正確にナビゲートしていた競技者を迷わすことになりうるため、コントロール間の最小直線距離を定義する。競技者は、電子フィードバックが、故意でも偶然でも直前にパンチしたものでなく、まさに到達したばかりのコントロールからのものであると認識できることが不可欠である。したがって、コントロール間の最小走行距離（丸い建物やその他の通行不能な特徴物を迂回して測定）は 25m である。競技規則 19.4 項に述べられているように、コントロール（スタートフラッグを含む）は 30m 以内に近接して設置してはならない。スプリントではもっと短縮してよい。地図の縮尺が 1:4000 または 1:3000 の場合は、走行距離で 25m、直線距離で 15m 以上とする。さらに、地図上でもテレイン内でも、コントロールの特徴物がはっきりと異なっていない場合の最小直線距離は、コントロールは 60m（地図の縮尺が 1:4000 や 1:3000 の場合は 30m 以内）とする。

3.5.6 コントロール位置説明

地図で示された特徴物に関してコントロールの位置は、コントロール位置説明によって定義される。

現地での正確なコントロール特徴物は、疑いなく地図で記されたポイントでなくてはならない。IOF コントロール識別記号によって明瞭かつ容易に定義することができないコントロールは、通常適当でなく避けるべきである。

3.6 フィニッシュ

少なくともフィニッシュ・ラインへのルートの最後の箇所は、誘導するマーカー・ルートにするべきである。

3.7 地図読みの要素

よいオリエンテーリング・コースにおいては、競技者はレースを通してナビゲーションに集中することを強いられる。それが特によいルート選択を行ったことによるものでない限り、地図読みやナビゲーションに注意を払う必要のない部分は避けるべきである。

3.8 ルートチョイス

ルートに選択肢があると、競技者は、テレインを評価し、そこから結論を導きだすために地図を使うことを強いられる。ルートチョイスは、競技者に独自の思考をさせ、フィールドの中に分散し、これによって「追従」を最小限にする。

3.9 難易度

いかなるテレインおよび地図でも、コース・プランナーは、広範囲の難易度を持つコースを設計することができる。レッグの難易度は、線状特徴物に近づいて沿って進むことのできる程度を多くしたり少なくしたりすることによって変えることができる。

競技者は、地図から得られる情報によってコントロールへアプローチする難易度を判断し、適切な技術を選択することができるべきである。

競技者に期待される技能、経験、および地図の詳細を読み取る能力に、注意を払うべきである。初心者や子供のためのコースを設計するときには、難易度のレベルを正しく設定することが、特に重要である。

3.10 競技の形態

コース・プランニングでは、競争形態によって要求されることを考慮に入れなければならない。例えば、スプリントやミドル・ディスタンス・オリエンテーリングのコース・プランニングでは、コースの全般を通して詳細な地図読みと、高いレベルの集中が要求されなければならない。リレー競技のコース・プランニングでは、競技の進行をその場で追って見たいという観客のニーズを考慮するべきである。また、リレーのコース・プランニングは、良好で十分なフォーキング／分散システムを含むべきである。

3.11 コース・プランナーが狙うべきもの

3.11.1 テレインを知る

コース・プランナーは、コントロールやレッグを使って設計する前に、テレインを熟知するべきである。

プランナーは、地図およびテレインに関連する条件が、競技の当日とコースを設計したときで、相違があるかもしれないということを知っておくべきである。

3.11.2 適切な難易度に設定する

初心者および子供のためのコースを、ついつい難しく設計しがちである。コース・プランナーは、自分自身のナビゲーション技能や、そのエリアを調査するときの自分自身の歩く速さによって、難易度を評価しないように注意すべきである。

3.11.3 公平なコントロール設置位置を使う

プランナーは、可能な限り最高のレッグを作ろうとして、不適当なコントロール位置を使ってしまいがちである。

競技者は、良いレッグと素晴らしいレッグの違いにはほとんど気がつかないが、コントロール位置やフラッグが隠されていたり、曖昧さがあつたり、紛らわしいコントロール位置説明などによって、コントロールで予期しなかったタイム・ロスがあると、ただちに気づくだろう。

3.11.4 十分に離れた場所にコントロールを置く

たとえコントロールが識別番号を持っているにしても、コース途上でコントロール位置に正確にナビゲートしている競技者を迷わすほど、お互いに近づけてコントロールを設置するべきではない。

3.11.5 複雑すぎるルート選択は避ける

プランナーは、決して取られないだろうルート選択を考えて、それによって複雑な課題を構成することに時間を費やすかもしれない、ところが、競技者は「次善の」ルートを取ることによってルート・プランニングの時間を節約するかもしれない。

3.11.6 体力的に過度の負荷とならないコースとする

コースは、通常はそのコースに参加するに適した競技者が、その能力の水準でコースの全体を走破できるように設定されるべきである。コースの登距離の合計は、想定される最短ルートの距離の 4%を超えないようにするべきである。

マスターズのクラスにおいては、年齢があがるにつれてコースの体力的な困難さが徐々に少なくなるようにすべきである。M70 と W65 を超えるクラスでは、特に体力的な要求が過度にならないように留意しなければならない。

4. コース・プランナー

コース・プランニングに携わる者は、個人的に経験を積むことによって、良いコースの品質を理解し提供できるような能力を身につけてなくてはならない。プランニングの理論にも熟知し、競技のクラス別および形態別に要求される課題を、理解していなくてはならない。

コース・プランナーは、現場において、例えばトレインの状態、地図の品質、関係者および観客の存在といった、競技に影響を及ぼすような様々な要因を評価できなくてはならない。

コース・プランナーは、スタートからフィニッシュラインまでの間のコースと競走に責任を持つ。コース・プランナーの仕事は、コントローラーによってチェックされなくてはならない。これは、重大な結果を引き起こすようなたくさん間違いが潜在しうるため、必須である。

付録 3: 良好な自然環境対策における IOF の決議 (IOF resolution on good environmental practice)

1996 年 4 月 12-14 日の国際オリエンテering連盟会議において、オリエンテeringが自然環境と友好的な関係を維持することの重要性を認識し、1995 年 10 月 26 日の環境の GAISF 決議にしたがって、以下の原則を採択した：

- ・ 健全な環境を保護する必要を理解し、この原則をオリエンテeringの基礎的な行為と統合することを継続すること。
- ・ 競技規則および競技会を組織する最もよい実施方法が、自然環境および植物相と動物相の保護に関する原則に反しないことを保証すること。
- ・ 最もよい実施方法が明確に定義づけられるように、地主、行政当局、および環境組織と協力すること。
- ・ 環境保全のための地方ごとの規制を遵守し、オリエンテeringでゴミを出さない性質を維持し、汚染を避けるために必要な措置をとることに、特に配慮すること。
- ・ オリエンティアおよび役員の教育およびトレーニングに、環境へのよい実践に関することを含むこと。
- ・ 各国の連盟が、世界的な環境問題の理解を高め、地方における繊細なオリエンテeringの使用を維持するための原則を採択して適用し、広く認知されるようにすること。
- ・ 各国の連盟が、自国の事情にそって環境への良い実践ガイドラインを用意することを、推奨すること。

付録 4: 認可されたパンチング・システム (Approved punching systems)

[競技規則 20.1 に、「IOF が認可した電子的パンチング・システムのみ使用してもよい。」と記述されている。]

- ・ (2020 年 1 月時点で) 完全に認可されているコントロール・パンチング・システムは、以下のものだけである：
 - ・ エミット (Emit) 電子パンチ & 計時システム
 - ・ SI (SPORTident) システム
 - ・ エミット・タッチ・フリー・パンチング・システム (Version 2013 onwards)
 - ・ SI Air+システム (range ~30cm)
 - ・ SFR システム クラシック (接触型) バージョン
 - ・ Learnjoy システム
- ・ 最新の認可されたバージョンの詳細は、仮承認されているシステムとともに、IOF のホームページに掲載される。
- ・ 上記以外のコントロール・パンチング・システムを使用する場合は、事前に IOF 規則委員会 (IOF Rules Commission) の承認が必要である。
- ・ エミット電子パンチシステムの場合、競技者の電子的コントロール・カードにバックアップ記印のために付されているバックアップ・ラベルは、水につかるなどの競技中に起こりうる状況に耐えるものでなくてはならない。万一電子パンチが故障していたためのために、バックアップ・カードに明瞭に記印してくることは、競技者の責任である。
- ・ SI システムの場合、各コントロールにバックアップ用のピン・パンチを設置しなければならない。E カードを差し込んで、フィードバック・シグナルを確認してから、E カードを抜くということは、競技者の責任である。フィードバック・シグナルが確認できなかったときには、バックアップ機器を使用しなければならない。
- ・ コントロール・カードはすべてのコントロールを通過したことが明瞭に示せるものでなければならない。コントロール・パンチが欠落しているか不明瞭なものがある競技者は、パンチのミスが競技者の落度ではないことが立証できなければ、順位外となる。立証できた場合には例外的に、コントロール役員またはカメラによる確認やコントロール機器を読み取ってくることで通過証明とすることができる。それ以外の場合には、そのような証拠は認められず、競技者を順位外としなければならない。従来の (非接触型) SportIdent、SFR、Learnjoy の場合、この規則は以下を意味する。
 - ・ 1 つの機器が故障していた場合は、競技者は用意されているバックアップを使用しなければならず、パンチの記録がなければ順位外とする。
 - ・ 競技者のパンチが速すぎてフィードバック・シグナルを受け取れなかった場合は、カードにはパンチの記録がないので、(たとえコントロール機器が競技者のカード・ナンバーを記録しているかもしれない) 競技者は順位外としなければならない。
 - ・ 主催者は、任意のコントロールからバックアップを読み取ることが許される。競技者は 20 EUR (または現地通貨での相当額) を支払うことで、主催者にコントロールからバックアップを読み取るよう要求することができる。コントロールに完全な (エラーではない) パンチ記録があることが判明した場合、競技者は正しくコントロールをパンチしたと記録されなければならず、料金は返金される。そうでなければ、料金は主催者が没収する。

付録 5: ライプニッツ協定 (Leibnitz Convention)

2000年8月4日、オーストリアのライプニッツにて開催された第20回 IOF 総会に出席した我々 IOF のメンバーは、以下のことを宣言する。

このスポーツ（オリエンテーリング）を、より多くの人々や新しい地域に拡大し、オリエンテーリングをオリンピック種目とすることが、明らかに重要である。これを達成するために、以下のことが主要な手段になる。

- ・ 競技者、役員、メディア、観客、スポンサー、外部パートナーにとって良質で、魅力的でエキサイティングなオリエンテーリング競技会を開催すること。
- ・ IOF イベントを TV やインターネットにとって魅力的なものとする。

我々は以下のことを狙いとする。

- ・ 競技会を人々のいる場所の近くで開催し、オリエンテーリングがより見やすいものにする。
- ・ 設備の設計や品質により多くの注意を払うことにより、競技会場をより魅力的にする。
- ・ 競技会場内にスタートとフィニッシュを設けることにより、競技会場をエキサイティングな雰囲気に改善する。
- ・ スリリングなスポーツ番組を作成するために、競技会がより多くのより良い機会を提供することにより、テレビやその他のメディアでの報道範囲を高める。
- ・ メディア取材者の便宜を図り、ケータリングを改善（通信機器、スタート／フィニッシュおよび森の中でのランナーへの接近、絶え間のない中間タイム計時情報、食事や飲料などについて）することにより、メディア・サービスを改善する。
- ・ IOF 競技会に関連しているスポンサーや外部パートナーを宣伝することに、より多くの注意を払う。

我々 IOF のメンバーは、これらの対策が、今後すべての IOF イベントの主催者によって考慮されることを期待する。

付録 6: 競技の構成 (Competition Format)

1. スプリント

1.1 特徴

スプリントの特徴は、「ハイスピード」である。スプリントは、競技者が高速で走りながら、複雑な状況下で地図を読み解釈する力、ルートチョイスをプランし実行する力を試す。コースは、競技を通じてスピードという要素が維持されるように設定されなければならない。コースには登りが含まれていてもよいが、競技者が歩かなければならないような急斜面は避けるべきである。コントロールの発見を難しくするのではなく、ベストルートを選び完遂することを要求すべきである。例えば、コントロールからの最も容易な脱出は、必ずしもベストルートとは限らない。コースは、競技を通じて、競技者に高い集中力を要求するように設定されるべきである。それができないような環境は、スプリントには適さない。

1.2 コース設定において考慮すべき点

スプリントにおいては、コースを通じて観客が認められる。コース設定はそれを考慮しなければならず、全コントロールを有人としなければならない。重要な小道には、競技者の接近を観客に警告し、競技者が妨げられないようにするために、警備要員を置くことも必要かもしれない。スタートは会場に置き、コースに沿って観客用の場所を用意してもよい。仮設スタンドを設け、実況アナウンサーを置けば、観客にとっての価値はさらに高まるだろう。会場内で観客用のサイトとメディア・撮影用のサイトの両方を公表しなければならない。コースは、競技者が私有地や立ち入り禁止地域を通してショートカットしようとするのを避けるように組まなければならない。その危険がある場合、そのようなことを避けるため、問題のある場所に審判を配置すべきである。複雑すぎて競技者が高速で走りながら地図を解釈できないような場所（例えば複雑な 3 次元構造）は避けるべきである。

1.3 地図

ISSpROM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:4000 である。地図は、正確であり、高速で読み取れること、ルートチョイスやスピードに影響を与える特徴物の記載が正しいことが重要である。街中でない場合は、走るスピードを落とすことになる状況について、その程度と範囲を正しく表記することが重要である。街中の場合は、通過を妨げる障害物が正しくその大きさと表現されなければならない。

1.4 優勝設定時間、スタート間隔、計時

優勝設定時間は、男女とも 12～15 分としなければならない。その中の短めの時間が望ましい。WOC とワールド・カップにおいては、予選と決勝で優勝設定時間に違いはない。スタート間隔は 1 分で、タイムを競う個人競技である。計時は 1 秒単位で行う。競技者は、スタート枠を出てから地図を取るようしなければならない。

2. ミドル・ディスタンス

2.1 特徴

ミドル・ディスタンスの特徴は、「技術的難しさ（テクニカル）」である。街中でない場所（多くの場合森林）で行われ、正確なナビゲーションが強調され、コントロール発見が難しいコースが組まれる。一貫して地図読みと集中が必要であり、コントロールから離れる方向が時折変化する。ルートチョイスの要素は重要だが、オリエンテーリングの技術的要求を損なうべきではない。ルートそのものが、ナビゲーションを要求するものでなければならない。コースはスピードの変化、例えばレグにより異なるタイプの植生など、を要求するものでなければならない。

2.2. コース設定において考慮すべき点

競技者が、コースの途中およびフィニッシュするのを観客から見られるようにすべきである。スタートは会場に置き、競技中に競技者が会場を

横切るようにするのが望ましい。会場選定の要求レベルは、適したトレインという点でも観客に競技者を見せるという点でも、非常に高い。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

2.3. 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:10000 である。トレインは 1:15000 用に作図したものでなければならず、ISOM の規定通りに厳密に拡大する。

2.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計時

優勝設定時間は、男女とも 30～35 分としなければならない。WOC とワールド・カップにおいては、予選の優勝設定時間は 25 分としなければならない。スタート間隔は 2 分で、タイムを競う個人競技である。競技者は、スタート枠を出てから地図を取るようしなければならない。

3. ロング・ディスタンス

3.1 特徴

ロング・ディスタンスの特徴は、「肉体的な耐久力」である。街中でない場所（多くの場合森林）で行われ、競技者の効率的なルートチョイス能力、地図を読み解釈する力、長く肉体的に厳しい中で持久力を維持してレースを組み立てる力が試される。この競技は、過酷でできれば陰しく要求の厳しいトレインでのルートチョイスとナビゲーションが強調される。コントロールは、難しいルートチョイスのあるロングレグの終着点であり、必ずしも発見が難しい必要はない。ロング・ディスタンスは、部分的にミドル・ディスタンスの要素を組みこんでもよい。その場合、コースは、突然ルートチョイス・オリエンテーリングのパターンから、より技術的に難しいレグへ変化することになる。

3.2 コース設定において考慮すべき点

競技者が、コースの途中およびフィニッシュするのを観客から見られるようにすべきである。スタートは会場に置き、競技中に競技者が会場を横切るようにするのが望ましい。ロング・ディスタンス特有の要素は、平均のレグよりずっと長いロングレグの存在である。ロングレグは、トレインの性質にもよるが、1.5km～3.5km の長さ及び、複数のそのようなロングレグがコースの一部を構成する（そこでも選択したルート上での地図読みの集中力は要求される）。ロング・ディスタンスのもう一つの重要な要素は、グループになった競技者を分散させるコース設定技術である。パタフライループはその一つである。視界の悪い部分にコースを組み、トレインを分散手段として使うのも重要である。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

3.3 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:15000 である。

3.4 優勝設定時間、スタート間隔、計時

優勝設定時間は、女子は 70～80 分、男子は 90～100 分としなければならない。WOC とワールド・カップにおいては、予選の優勝設定時間は女子 45 分、男子 60 分としなければならない。スタート間隔は 3 分で、タイムを競う個人競技である。競技者は、スタート枠を出てから地図を取るようしなければならない。

4. リレー

4.1. 特徴

リレーの特徴は、「チーム競技」である。リレーは、街中でない場所（多くの場合森林）で行われる。この形式は、技術的要求のコンセプトで行われ、ロング・ディスタンスよりはミドルに近い。競技者同士が接触することなく追い越すことができるよう、比較的長いルートチョイスレグのようなロング・ディスタンスの特徴も併せもつべきである。競技者がお互いの姿を見失うような特徴（藪や多くのアップダウンなど）を持つトレインが、良いリレー・トレインである。ずっと見通しの良いトレインはリレー向きではない。

4.2. コース設定において考慮すべき点

リレーは、チーム競技の直接対決であり、早くフィニッシュしたものが勝者という、観客を楽しませる競技である。会場レイアウトとコース設定はこの点を考慮しなければならない（例えば、フォーク形式の場合、異なるコースの所要時間の差は小さくすべきである）。競技者は、各走順とも、会場を横切るようにすべきであり、可能ならば、競技者が最終コントロールに近づくのを会場が見られるのが望ましい。適切な数の中間計時（できれば森の中からの実況とともに）を用意すべきである（会場のスクリーンに映される TV コントロールも）。マス・スタート形式であるため、競技者を分散させるコース設定技術（例：フォーキング）が必要となる。有力チームは、注意深く別のフォーキング・パターンに割り当てるべきである。公平さを保つために、最終走者の最後の部分はすべての競技者とも同じにしなければならない。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

4.3. 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:15000 または 1:10000 である。地図縮尺は、コース設計の複雑さを基に決めなければならない（例えば、コントロール間が近接したショートレグがある場合、大きな縮尺が必要かもしれない）。1:10000 が用いられる場合、テレインは、1:15000 用に作図したものでなければならず、ISOM の規定通りに厳密に拡大する。

4.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計時

優勝設定時間（優勝チームの合計時間）は、女子のリレーも男子のリレーもともに 90-105 分でなければならない。この合計時間の範囲内で、レグ（走順）間の時間は異なってもよい。ただし、どのレグも 40 分より長く、または 30 分より短くすべきではない。リレーは、マス・スタート形式で、男女とも 3 レグ（3 名）で構成される。WOC では、計時は電子式が望ましいとしなければならないが、手動計時を用いてもよい。フィニッシュラインには順位を判定するのを補助するための写真判定装置を設置しなければならない。

5. スプリント・リレー

5.1. 特徴

スプリント・リレーの特徴は、「男女混合の高速で直接対決の競走」である。都市と公園の環境で行われる。形式はスプリント競技とリレーのコンセプトの組み合わせである。4 本のレグがあり、最初と最後のレグは女子が走らなければならない。

5.2. コース設定において考慮すべき点

競技で必要となるのは比較的小さなエリアですむ（特に会場内通路を使う場合）。この競技会は、観客にとって理解しやすくしなければならない。コースの少なくとも 70~80% を TV カメラでカバーすることが可能であるべきである。競技は、75 分のライブ放送と会場演出コンセプトに基づいて運営される。15 分は放送の紹介、インタビュー、表彰式に割り当てられる。会場内通路は 1 つは使えるようになっているべきである。可能であれば、コースの質に過度の妥協のないようにする。コース上でテレビ中継できる範囲が広ければ、会場の通過は必ずしも必要ではない。これにより、コースプランの柔軟性を高め、より良い、より困難なコースを可能にするかもしれない。会場内通路を使う場合は、1 レグにつき 2 つのループを用意し、地図のそれぞれの側に 1 つずつのループを表記する。コースは分岐（fork）させなければならない。GPS トラッキングが必要で、「タッチフリー」パンチングを検討する必要がある。

5.3. 地図

1.3 スプリントを参照。

5.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計時

優勝設定時間（優勝チームの合計時間）は 55-60 分としなければならない。各レグの時間は 12-15 分としなければならない。最初と最後のレグ（女子が走る）は 2 番目と 3 番目のレグより少し短くすべきである。WOC では、計時は電子式が望ましいとしなければならないが、手動計時を用いてもよい。フィニッシュラインには順位を判定するのを補助するための写真判定装置を設置しなければならない。

6. ノックアウト・スプリント

6.1. 特徴

ノックアウト・スプリントの特徴は、最初のラウンド以外のすべてのレースで「個人で複数ラウンドによる高速で直接対決の競走」である。都市と公園の環境で行われる。ノックアウト・セクションに進む資格を得るために、パラレル・コースのインターバル・スタートによる予選を行う。1 回以上のノックアウト・ラウンドを、いくつかのパラレル・コースのマス・スタートで行い、上位の選手が次のラウンドへ進む資格を得る。最後に、勝者を決定するための単一のマス・スタートレースを行う。

6.2. コース設定において考慮すべき点

競技で必要となるのは比較的小さなエリアですむ（特に会場内通路を使う場合）。この競技会は、観客にとって理解しやすくしなければならない。コースの少なくとも 70～80%を TV カメラでカバーすることが可能であるべきである。ノックアウト・ラウンドのコースは分岐させてもよい。標準的なフォーキングの代わりに、コース選択フォーキングを使用しなければならず、各選手がスタートの 20 秒前にコースが異なる 3 つの地図のうちから 1 つを選択するようにする。GPS トラッキングが必要で、「タッチフリー」パンチングを検討する必要がある。

6.3. 地図

1.3 スプリントを参照。

6.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計時

初回の予選レースの優勝設定時間は 8～10 分としなければならない。ノックアウト・ラウンドの優勝設定時間は 6～8 分としなければならない。フィニッシュ・ラインには順位を判定するのを補助するための写真判定装置を設置しなければならない。

付録 9: アジアオリエンテーリング選手権 (The Asian Orienteering Championships)

アジアオリエンテーリング選手権 (AsOC) は、アジアのオリエンテーリングチャンピオンを決定する公式な競技会である。これは、アジア地域ワーカーキンググループを通して IOF の後援のもと、IOF の任命された連盟 (複数の場合もある) によって組織される。

これらの規則は男女のエリートクラスに適用される。

1. AsOC の原則

選手権は以下の原則にしたがって組織されなければならない。

- 参加者には国際的な技術標準の競技を提供されなければならない。
- この選手権は、アジア地域における競技オリエンテーリングの発展とともに、全体としてのオリエンテーリングの発展を目指している。
- 参加費は低く抑えて、さまざまな基準や価格の宿泊施設を提供しなければならない。
- この選手権は、アジア地域の加盟連盟からより多くの参加を奨励することを目指さなければならない。

2. 競技会のプログラム

イベントは偶数年に開催される。プログラムには少なくともリレー、ロング/ミドル、スプリント競技を含む。組織連盟は、連盟の状況と利用可能なリソースによってロングまたはミドルを選択してよい。

ロング/ミドル、スプリント競技は決勝のみが行われる。リレー競技では各チームは 3 名の選手で構成される。本規則に別段の定めがない限り、この競技会は IOF 競技規則にしたがわなければならない。AsOC の日程は他の国際競技会と調整して、最終的に IOF によって承認されなければならない。

この競技会には、アジアジュニアユース選手権も組み込まれる。

3. 競技会の申請と主催者の任命

IOF 加盟連盟であるアジアの連盟はいずれも AsOC の主催を申請することができる。申請は、競技会の 2 年前の 1 月 1 日までに IOF 事務局に届けられなければならない。アジア地域会議が主催者を IOF 理事会に推薦する。主催連盟の仮任命が、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会によってなされる。それぞれの任命は 6 か月以内に競技会を組織する契約に署名することで確定されなければならない。そうでなければ、IOF 理事会は代替者を任命してもよい。他の連盟から IOF イベントアドバイザーの資格を有する者が、イベントコントロールのために IOF によって任命されなければならない。

4. 参加

国際オリンピック委員会がアジア大陸に属すると定義した IOF の加盟連盟を代表する競技者が、AsOC で競うことができる。

IOF の他の加盟連盟を代表する競技者も AsOC に参加することはできるが、アジア選手権やメダル、賞状の対象にはならない。

クラスは M21E と W21E を設ける。個人競技においては、各連盟は女子 10 名、男子 10 名までの選手を参加させることができる。

リレー競技においては、各連盟は最大で男女各 2 チームを参加させることができる。ただし、成績リストでカウントされるのは順位の良い方の 1 チームのみである。

チームオフィシャルの人数を制限してはならない。

5. スタート順

個人競技においてはスタート順はランダムに抽選されなければならない。抽選は 3 つのスタートグループ (早い枠、中間の枠、遅い枠) 毎に行われなければならない。

6. 裁定委員

裁定委員は IOF 理事会が任命する。主催者は 3 名の投票権を持つメンバーを推薦しなければならない。

7. 表彰

IOF は、特別にデザインされたメダルまたは同等のものを、すべての個人競技（各クラス／競技の上位 3 名にメダル）とリレー（各クラス上位 3 チームのメンバーにメダル）で授与する。1～6 位には賞状を授与する。

付録 10: アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権 (The Asian Junior and Youth Orienteering Championships)

アジアジュニア選手権 (略称 AsJOC) とアジアユースオリエンテーリング選手権 (略称 AsYOC) は、アジアジュニアオリエンテーリングチャンピオンとアジアユースオリエンテーリングチャンピオンを決定する公式な IOF 選手権である。これらの選手権は IOF と任命された連盟の権威のもとで一つの競技会として一緒に組織される。

本規則に別段の定めがない限り、この競技会は IOF フットオリエンテーリング競技規則にしたがうものとする。

1. AsJOC と AsYOC の原則

選手権は以下の原則にしたがって組織されなければならない。

- 各アジア連盟の最高のジュニアおよびユースのオリエンティアには、最高の競技的品質の競技を提供されなければならない。
- この競技会は競技的というよりむしろ親睦的な雰囲気とし、若者が経験を交換したり新しい友人を見つけたりできるようにしなければならない。
- 参加費は低く抑えなければならない。

2. 競技会のプログラム

偶数年にこのイベントはアジア選手権とともに開催されなければならない。プログラムには以下を含む。

- スプリント決勝
- ロングディスタンスまたはミドルディスタンス決勝
- 3 区間からなるリレーまたは 4 区間からなるスプリントリレー

奇数年にこのイベントは独立した競技会として開催されなければならない。プログラムには以下を含まなければならない。

- スプリント決勝
- ロングディスタンス、ミドルディスタンス決勝またはノックアウト・スプリント
- 4 区間からなるスプリントリレー

プログラムには開会式、閉会式および適切なモデルイベントを含まなければならない。プログラムは 4 日以内で運営し、競技者の健康と開催地の気象を考慮しなければならない。日程は他の国際ジュニア競技会と調整しなければならない。

3. 競技会の申請と主催者の任命

IOF 加盟連盟であるアジアの連盟はいずれも AsJOC と AsYOC の主催を申請することができる。申請は、競技会の 2 年前の 1 月 1 日までに事務機局に届けられなければならない。主催者または主催連盟の仮任命が、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会によってなされる。それぞれの任命は 6 か月以内に競技会を組織する契約に署名することで確定されなければならない。そうでなければ、IOF 理事会は代替者を任命してもよい。他の連盟から IOF イベントアドバイザーが IOF によって任命されなければならない。

4. 参加とクラス

国際オリンピック委員会がアジア大陸に属すると定義した IOF の加盟連盟を代表する競技者が、AsJOC および AsYOC で競うことができる。

IOF の他の加盟連盟を代表する競技者も参加することはできるが、アジア選手権やメダル、賞状の対象にはならない。

個人競技においては、各連盟は各クラスに最大で 6 名の選手を参加させることができる。

アジアジュニアオリエンテーリング選手権のクラスは以下の通り。

- W20 : 競技年の 12 月 31 日時点で 20 歳未満の女子選手
- M20 : 競技年の 12 月 31 日時点で 20 歳未満の男子選手。

アジアユースオリエンテーリング選手権のクラスは以下の通り。

- W16： 競技年の 12 月 31 日時点で 16 歳未満の女子選手
- W18： 競技年の 12 月 31 日時点で 18 歳未満の女子選手
- M16： 競技年の 12 月 31 日時点で 16 歳未満の男子選手
- M18： 競技年の 12 月 31 日時点で 18 歳未満の男子選手

エントリーしたすべての選手は、個人競技の両方に参加してもよい。女子は男子のクラスで競ってもよい。

3 区間によるリレーは、W20,M20,W18,M18,W16,M16 のリレーでなければならない。

4 区間によるスプリントリレーは、M/W20,M/W18,M/W16 のリレーでなければならない。各チームは少なくとも 2 名の女子を含まなければならない。最初と最後の区間は女子が走らなければならない。

もし連盟が完全なリレーチームを組むことができなければ（女子が男子のクラスを走ったとしても）、不完全なチームとするか、他の連盟との混成チームを組んでもよい。いかなる事情があっても、エントリーした競技者以外の者が競技に参加することはできない。2 つ以上の連盟の選手からなるチームは、公式な成績リストでは順位付けされない。

5. スタート順、スタート間隔、優勝設定時間

ロング・ディスタンス／ミドル・ディスタンスのスタート間隔は 2 分、スプリント・ディスタンスは 1 分とする。スタート順は 5 つのグループ毎にランダムに抽選される。1 つのグループにどの国からも 2 名以上の選手を入れることはない。同じ連盟の選手が続けてスタートすることがあってはならない。

優勝設定時間：

クラス	ノックアウト・スプリント		スプリント	ミドル	ロング	リレー
	予選	ノックアウト・ラウンド				
W20	8-10 min	6-8 min	12-15 min	30-35 min	55-60 min	105 min
M20	8-10 min	6-8 min	12-15 min	30-35 min	60-70 min	105 min
W18	8-10 min	6-8 min	12-15 min	25-30 min	45-50 min	90 min
M18	8-10 min	6-8 min	12-15 min	25-30 min	55-60 min	90 min
W16	8-10 min	6-8 min	12-15 min	25-30 min	35-40 min	75 min
M16	8-10 min	6-8 min	12-15 min	25-30 min	45-50 min	75 min
M/W20						60 min
M/W18						45 min
M/W16						45 min

6. 成績

資格のない選手が競技に参加した場合は、別に成績リストを公表しなければならない。一つは資格のある選手のみ（公式な選手権結果）を示し、もう 1 つはすべての選手の成績（全員の成績リスト）である。リレーでは 2 つの成績リストが作成されなければならない。1 つはすべて成績リストで、もう 1 つは資格のないチームと各連盟の最高順位以外のチームを除外したものである。

7. 表彰

すべての競技でメダル（各クラス／競技で 3 つのメダル、リレーの各クラスで 3 セットのメダル）が、1 ～ 6 位には賞状が IOF より授与されなければならない。

主催連盟と IOF の代表者が表彰式をとりおこなわなければならない。

8. 裁定委員

裁定委員は IOF 理事会が任命する。主催者は 3 名の投票権を持つメンバーを推薦しなければならない。